平成29年度

なごや生物多様性保全活動協議会
活動報告書

平成３０年３月

なごや生物多様性保全活動協議会

平成29年度 なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書

平成30年3月

目　次

はじめに ― 1

なごや生物多様性保全活動協議会について ― 3

動物調査と保全対策部会 ― 7

水辺の生きもの部会 ― 10

生物情報モニタリングデータベース部会 ― 15

オオキンケイギク対策部会 ― 17

里山林・社寺林部会 ― 19

【広報部会】
なごや生きもの一斉調査～淡水貝編～ ― 22

【広報部会】
なごや生物多様性サマースクール2017 ― 26

定例会 ― 28

会員活動支援 ― 29

花木園におけるトンボ相の調査 ― 30
（大高緑地湿地の会）

なごや東山の森(緑地保全地区)灯火採集 ― 31
（NPO法人 なごや東山の森づくりの会）

荒池緑地昆虫類生息調査 ― 32
水辺の生きもの調査
（荒池ふるさとクラブ）

夏休み 山崎川生きもの観察会 ― 33
（山崎川グリーンマップ）

滝ノ水緑地 昆虫採集＆観察会 ― 34
（滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会）

竹林管理と調査 ― 35
（花水緑の会〈大高竹の会〉）

外堀を知ろう！体験会 ― 36
（名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち）

講演会開催 ― 37
（名古屋昆虫同好会）

東谷山南西湿地ボーリング調査の報告会 ― 38
（愛知守山自然の会）

地域活動支援 ― 39

発光生物「ホタルイカ」調査 ― 40
（大高緑地セ前観察会・地球ハグ倶楽部）

牧野ヶ池緑地移入種スイレン抜根調査 ― 41
（牧野ヶ池緑地保全協議会）

細口池の生きもの復活作戦 ― 42
（細口池生きもの復活クラブ）

助成金事業 ― 43

会員団体の活動紹介・報告

相生山緑地自然観察会 ― 44

「あいちの海」グリーンマップ ― 44

愛知守山自然の会 ― 45

雨池ホタルの会 ― 45

荒池ふるさとクラブ ― 46

伊勢・三河湾流域ネットワーク ― 46

大高緑地湿地の会 ― 47

尾張サンショウウオ研究会 ― 47

かんでらmonzen亭
「笠寺ミツバチプロジェクト」 ― 48

雑木林研究会 ― 48

地球ハグ倶楽部 ― 49

中部蜘蛛懇談会 ― 49

中志段味の自然を次世代に伝える会 ― 50

なごや外来種を考える会 ― 50

「なごや環境大学」実行委員会 ― 51

名古屋昆虫同好会 ― 51

名古屋自然観察会 ― 52

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち ― 52

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター ― 53

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会 ― 53

NPO法人 なごや東山の森づくりの会 ― 54

NPO法人 日進野菜塾 ― 54

日本カメ自然誌研究会 ― 55

日本野鳥の会愛知県支部 ― 55

花水緑の会 ― 56

隼人池を美しくする会 ― 56

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会 ― 57

三河淡水生物ネットワーク ― 57

名東自然観察会 ― 58

名東自然倶楽部 ― 58

もりづくり会議 ― 59

守山リス研究会 ― 59

矢田・庄内川をきれいにする会 ― 60

山崎川グリーンマップ ― 60

はじめに

なごや生物多様性保全活動協議会　会長　眞弓 浩二

なごや生物多様性保全活動協議会が発足して7年が過ぎようとしています。平成29年度も協議会の各部会では会員による精力的な活動と、センター事務局との連携によって、多くの成果を得ることができました。長年の活動実績を背景に、各部会活動の内容も充実し、新たに発足した里山林・社寺林部会とともに更なる活動の展開が期待されます。

今年度の新たな取り組みとしては、協議会会員の執筆による「（仮称）なごや生物多様性ガイドブック」の編集があげられます。現在、今秋の出版に向けて作業を進めているところです。このガイドブックは、多岐にわたる自然環境・生物部門の専門家市民、学術研究者を擁する本協議会ならではの大作になると期待しています。「愛知、名古屋に自然史博物館を・・」を合言葉に協議会に集った、生きものの専門家市民による、まさに「みんなが主役」の一冊になると思っています。

一方、名古屋の生物多様性を守り育てる市民や各団体では、高齢化により活動の継続が危ぶまれ、次世代を担う後継者不足の声も聞かれます。今後これらの状況は、ますます深刻になってくるものと懸念されます。

そんな中、毎年夏に開催される「なごや生物多様性サマースクール」には、定員をはるかに超える子どもたちの応募があるほか、秋の「なごや生物多様性センターまつり」では、中学生や高校生の生物部活動など、「生物多様性ユースひろば」での研究発表が目を引きました。また大学生の生物サークル活動などを含め、協議会の各部会活動においても、これらユースの皆さんの力は貴重な戦力となってきています。

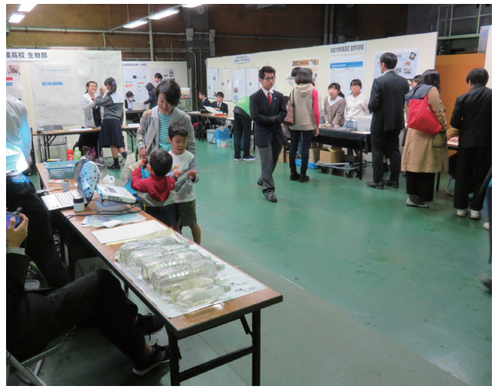
昨年11月に行われた滝ノ水緑地での池干し調査活動では、緑高校や名城大学の学生らの目覚ましい活躍によって、素晴らしい成果を収めることができました。それはまた、生物多様性保全に対する彼らの高い意識と感性を頼もしく感じる機会ともなりました。

聞くところによれば、3年後から大学入試制度が見直され、高校時代に学業や部活動以外の市民活動などに携わった実績が評価対象になるということです。私たち協議会は、これら未来の主役たちの受け皿として、今後役割を果たしていかなければなりません。そして、若者たちとともに「愛知、名古屋に自然史博物館を・・」の夢を共有し、想いを実現していきたいと思うのです。

既に、齢60を超えた私は「次世代育成」などという「上から目線」でなく、次世代の生きものファンや研究者、保全活動家が、思う存分活動を展開できる機会をつくり、環境を整え、そしてこれらをサポートしていくことに傾注していきたいと考えています。

●2017/11/03　池干し事前調査でハゴロモモの除去に取り組む学生の皆さん

●2017/11/26　池干し調査当日、水が抜かれた池で外来生物の除去に取り組む学生たち



●2017/10/28　第４回なごや生物多様性センターまつりで同時開催された、生物多様性ユースひろばでの各高校の活動成果の紹介展示

●2017/10/28　なごや生物多様性センターまつりで各校の部活動に送られた各賞の授与式の様子

なごや生物多様性保全活動協議会について

協議会の設立

名古屋市には東部丘陵地を中心に 111 箇所ものため池が現存しています。しかしながら、都市農業の衰退により、ため池の主な役割が「利水」から「治水」に変化しました。そのため、人とため池との係わりが希薄化したことや、外来種の侵入によって在来の生きものが減少したことで、ため池生態系の劣化が進んでいると言われています。

COP10 開催決定を契機に、平成 20 年度から 3 年間、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立し、地域住民・市民団体・行政が協働でため池の生物調査や保全活動を行ってきました。

平成 23 年度からは、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げるとともに、侵略的な外来種の防除に力を入れるなど、活動内容を拡充するため、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」の組織体制と人材を拡充し、「なごや生物多様性保全活動協議会」（以下「協議会」といいます。）を平成 23 年 5 月 15 日に設立しました。

協議会の設置目的は、「なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通し、身近な自然の保全を実践する」ことです。

協議会の活動

協議会は、設立目的に基づき、市民・専門家・行政の協働で生物多様性に関する調査・保全活動を実施しています。

活動を支える事務局と拠点は「なごや生物多様性センター」が担っており、平成 23 ～ 25 年度の活動は、環境省からの交付金（環境省生物多様性保全推進支援事業）および名古屋市からの負担金により、平成 26 年度の活動は、一般財団法人セブン－イレブン記念財団の助成金および名古屋市の負担金により、平成 27 年度以降の活動は、名古屋市の負担金のみにより、事業を実施しています。

協議会が平成 29 年度に取り組んだ主な調査・保全活動は、アライグマ・ミシシッピアカミミガメ・園芸スイレン・オオキンケイギクなどの外来種対策、市内のため池・水路・名古屋城などにおける生物調査と外来種防除、滝ノ水北池の池干しによる外来種防除と汚泥の除去等を実施しました。

また、身近な自然や生きものに一層の関心をもっていただく機会として、7～8 月に小中学生を対象とした「なごや生物多様性サマースクール 2017」を、9 月上旬には「なごや生きもの一斉調査 2017」として淡水貝の調査を市民のみなさんと共に行いました。

調査・保全活動を通して得た結果については、収集・蓄積し今後に生かすために、生物情報モニタリングデータベースの構築を進めています。

協議会の取り組みを発信する場として、平成 30 年 5 月 13 日に活動報告会を実施します。

協議会の構成

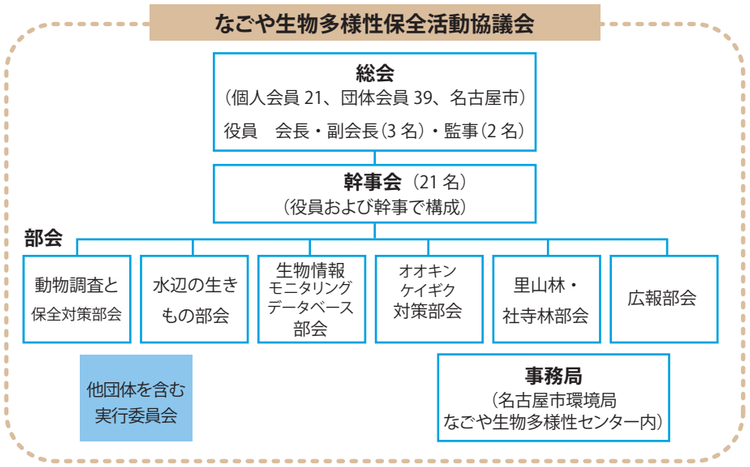
協議会は、平成 30 年 3 月末現在、21 の個人会員、39 の団体会員、名古屋市で構成しています。1 年間の事業計画や事業報告については、総会にて議決します。

また、役員（会長・副会長 3 人・監事 2 人）と幹事（16 人）を置き、幹事会にて運営に係る事項について協議しています。

事業の実施にあたっては、活動分野ごとに部会を設置し、部会ごとに調査内容・方法・日程・調査者等の計画を作成し、実施しています。事務局は、各部会や実行委員会の実施する調査や会議、イベントについて、準備、連絡調整等の役割を担っています。

市民の方を対象に、協議会が実施する調査やイベントなどへご参加いただく仕組みとして、「なごや市民生きもの調査員」を募集しています。ご登録いただいた方へは、イベントなどの募集情報を随時案内しています。（平成 30 年 3 月 23 日現在・登録者数 820 名）

平成29年度協議会の組織・構成



部会一覧

- 動物調査と保全対策部会
- 水辺の生きもの部会
- 生物情報モニタリングデータベース部会
- オオキンケイギク対策部会
- 里山林・社寺林部会（新設）
- 広報部会

幹事一覧

（平成 30 年 3 月末現在・敬称略）

氏　名	所　属　等	備　考
石原　則義	愛知守山自然の会／名古屋自然観察会	
梅本　洋子	花水緑の会	
大塚　徹	市内外来種及びため池調査	
大沼　淳一	水質	
大矢　美紀	山崎川グリーンマップ	
小菅　崇之	水生植物	
柴田　良成	中部蜘蛛懇談会	
鷲見　順子	なごやの森づくりパートナーシップ連絡会（滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会）	
瀧川　正子	NPO 法人 なごや東山の森づくりの会	
津田　美子	名古屋市立長良中学校	
富田　啓介	愛知学院大学教養部講師	
西尾　英孝	なごや環境大学実行委員会	監　事
野中　賢輔	なごや外来種を考える会	
橋本　啓史	名城大学農学部生物環境科学科准教授	
堀田　守	名東自然観察会	監　事
間野　隆裕	名古屋昆虫同好会	副会長
眞弓　浩二	雑木林研究会	会　長
森山　昭彦	中部大学応用生物学部教授	副会長
安田　和代	名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち	
矢部　隆	日本カメ自然誌研究会	副会長
榊原　靖	名古屋市環境科学調査センター研究員	
後藤　仁美	名古屋市環境局環境企画部主幹（生物多様性推進担当）	

会員一覧

（平成 30 年 3 月末現在・敬称略）

団体会員

氏　　名
相生山緑地自然観察会
「あいちの海」グリーンマップ
愛知守山自然の会
雨池ホタルの会
荒池ふるさとクラブ
伊勢・三河湾流域ネットワーク
大高緑地湿地の会
尾張サンショウウオ研究会
かんでら monzen亭「笠寺ミツバチプロジェクト」
特定非営利活動法人　環境市民　東海事務所
白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会
雑木林研究会
地球ハグ倶楽部
中部蜘蛛懇談会
中志段味の自然を次世代に伝える会
なごや外来種を考える会
なごや環境大学実行委員会
名古屋昆虫同好会
名古屋自然観察会(愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部)
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科生物多様性研究センター
名古屋市立鳴子台中学校科学部
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会
NPO法人　なごや東山の森づくりの会
NPO法人　日進野菜塾
日本カメ自然誌研究会
日本野鳥の会愛知県支部
花水緑の会
隼人池を美しくする会
特定非営利活動法人　藤前干潟を守る会
三河淡水生物ネットワーク
名城大学理工学部環境創造学科齊藤研究室
名城大学理工学部環境創造学科谷口研究室
名東自然観察会
名東自然倶楽部
もりづくり会議
守山リス研究会
矢田・庄内川をきれいにする会
山崎川グリーンマップ

個人会員

氏　　名
飯尾　俊介
伊東　英幸
御池　俊輔
太田　貴大
大塚　徹
大沼　淳一
川瀬　基弘
小菅　崇之
澤村　壽
髙木　順夫
高山　博好
津田　智
津田　美子
土山　ふみ
研谷　厚
富田　啓介
橋本　啓史
伴　知幾
松沢　孝晋
守谷　茂樹
森山　昭彦

名古屋市

なごや生物多様性保全活動協議会事務局を、なごや生物多様性センター内に置く。

通常総会の開催

開催日	主　な　内　容
4 月 29 日	1　平成２８年度事業報告について 2　平成２８年度決算報告について 3　平成２８年度会計監査報告について 4　規制改正について 5　平成２９年度役員選任について 6　平成２９年度事業計画（案）について 7　平成２９年度収支予算（案）について

幹事会の開催

回	開催日	主な内容
第1回	5月25日	1　平成２９年度幹事について 2　各部会報告等 3　サマースクール・一斉調査について 4　会員活動支援・地域活動支援について 5　平成２９年度定例会について
第2回	6月22日	1　各部会報告等 2　一斉調査について 3　会員活動支援について
第3回	7月27日	1　各部会報告等 2　新規会員について 3　会員活動支援について 4　ガイドブックについて
第4回	8月24日	1　各部会報告等 2　ガイドブックについて
第5回	9月28日	1　各部会報告等 2　ガイドブックについて 3　会員活動支援について
第6回	10月26日	1　各部会報告等
第7回	11月24日	1　各部会報告等 2　会員活動支援について 3　平成３０年度なごや生物多様性保全活動協議会助成金について
第8回	1月25日	1　各部会報告等 2　会員活動支援について 3　平成３０年度協議会事業について
第9回	2月22日	1　各部会報告等 2　会員活動支援について 3　平成３０年度協議会事業について 4　ガイドブックについて
第10回	3月22日	1　新規会員申請について 2　会員活動支援について 3　平成３０年度協議会事業について 4　平成３０年度一斉調査について 5　ガイドブックについて

動物調査と保全対策部会

なごや生物多様性センター　野呂 達哉

はじめに

市内と周辺地域に生息する野生動物について、部会員と有志（学生、専門家、大学研究室、保全団体、市民調査員など）が協力して、種ごとの分布状況や生息環境の特性を明らかにする調査・研究を行っている。また、調査で採集、捕獲した生物や駆除等で捕獲した生物について、計測や解剖、標本化を行い、資料を蓄積している。これらの結果や資料を基に外来種の防除や在来種の保護、保全を計画、実施する。
その他、活動内容や調査・研究結果を伝える啓発、展示、環境学習、調査実習、大学生の卒業論文等にも協力している。

平成29年度の主な活動

- カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除
- ニホンイシガメの保護・保全
- センサーカメラによる哺乳類のモニタリング調査
- 捕獲罠を使った哺乳類のモニタリング調査
- 緑地におけるアライグマのモニタリング調査と防除
- コウモリ類のモニタリング調査
- 解剖と標本作製
- 環境学習やセンターまつり等への協力

平成29年度の主な活動記録

● カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除

内容　天白川、山崎川、隼人池では浮島型罠による捕獲調査を実施し、アカミミガメを取り除いた。また、堀川では外来種であるフロリダスッポンの調査を実施した。

場所　天白川、山崎川、隼人池、堀川

連携　隼人池公園特定愛護会、天白・川辺の楽校、山崎川グリーンマップ、名古屋コミュニケーションアート専門学校

図1．浮島型罠の回収（天白川）

図2．フロリダスッポン（堀川）

● ニホンイシガメの保護・保全

内容　同一地域で捕獲したニホンイシガメを飼育下で繁殖させ、野外で減少しているオス個体を得るために卵をインキュベーターによって 27℃設定で管理し、孵化させた。孵化した幼体を飼育下で育成、今後、親個体の得られた場所に放逐する予定。

場所　隼人池、塚ノ坏池、なごや生物多様性センター

連携　名城大学野生動物生態研究会

図3．ニホンイシガメ成体の計測

図4．孵化したニホンイシガメの幼体

● センサーカメラによる哺乳類のモニタリング調査

内容　各調査地域にセンサーカメラを設置し、哺乳類の生息分布状況を調査した。特に庄内川では春日井市から名古屋市港区にかけての広範囲に調査地点を設定し、場所ごとの撮影状況の違いを調べた。

場所　東谷山、大高緑地、東山動植物園、東山公園南部、モリコロパーク、庄内川

連携　名城大学農学部環境動物学研究室、名古屋大学未来材料・システム研究所林研究室、花水緑の会

図5．撮影されたニホンジカ（庄内川・春日井市）

● 捕獲罠を使った哺乳類のモニタリング調査

内容　各種トラップによってネズミ類、モグラ類、イタチ類の捕獲調査を実施した。

場所　庄内川

連携　名城大学農学部環境動物学研究室
名城大学野生動物生態研究会

図6．捕獲したアカネズミの計測（庄内川）

● 緑地におけるアライグマのモニタリング調査と防除

内容　アライグマ、ハクビシン、シベリアイタチなど外来哺乳類を捕獲した。大高緑地、小幡緑地では箱罠の見回りを保全団体が実施した。

場所　小幡緑地、大高緑地、八竜緑地、二ツ池、雨池、平和公園

連携　花水緑の会（大高緑地）、愛知守山自然の会（小幡緑地）

● コウモリ類のモニタリング調査

内容　音声を録音、分析することでコウモリ類の生息分布調査を行った。

場所　名古屋城、大村池

図 7．コウモリ類調査（名古屋城）

● 解剖と標本作製

内容　防除捕獲された動物を材料として解剖を実施した。

場所　なごや生物多様性センター

連携　名城大学野生動物生態研究会

図 8．解剖実習（なごや生物多様性センター作業室）

● その他

〇環境学習への協力

対象　八事小学校、南山大学付属小学校、山崎川グリーンマップ、細口池生きもの復活クラブ。

場所　隼人池、山崎川、細口池

協力　名古屋コミュニケーションアート専門学校（山崎川）

〇生体および標本展示

内容　なごや生物多様性センターまつりでカメ類などの生体および哺乳類の頭骨標本を展示、解説した。

協力　名城大学野生動物生態研究会、名古屋コミュニケーションアート専門学校

図 9．なごや生物多様性センターまつりでの展示

結果と今後について

調査結果の詳細については、なごや生物多様性センターの機関誌である「なごやの生物多様性」等で報告していく。

今後の予定として、来年度は本年度の活動をほぼ踏襲するとともに、分析や発表等でこれまでの成果をまとめていく予定である。

水辺の生きもの部会

水辺の生きもの部会 部会長・環境科学調査センター　榊原 靖 ／なごや生物多様性センター　寺本 匡寛

はじめに

水辺の生きもの部会では、名古屋市およびその近郊にある水域（周辺域を含む）に生息・生育する水辺の生きものについて、なごや生物多様性保全活動協議会員、市民調査員、学生、専門家、保全団体などと協働で分布調査、生息・生育環境調査を行っています。また、環境教育や次世代育成にも力を入れ、体験型の講座なども行っています。これらの活動から得られた知見を発信し、在来種の保全対策や外来種の防除対策を計画・実施することで生物多様性への寄与や保全に繋げています。

平成29年度の活動

- 池干し
- 池干しモニタリング調査
- 淡水貝一斉調査の補完調査（専門調査）
- ヒキガエルアンケート調査を受けての分布調査とmtDNA 解析
- 名古屋市及びその近郊に分布するカエル調査
- 水田・水路及びその周辺の生物調査
- カワバタモロコの保護と生体標本の維持管理
- 外来種対策
- 生態写真の撮影
- 園芸スイレン除去の普及啓発
- 東山の水田における水田雑草調査
- オニバスをはじめとした植物相調査

平成29年度の活動記録

● 池干し

名古屋市緑区の滝ノ水緑地にある滝ノ水北池において11月26日に池干しを実施しました。池干しを実施するにあたり、7月14日に池干し実行委員会（滝ノ水学区連絡協議会、滝ノ水小学校、滝ノ水中学校、滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会、なごや生物多様性保全活動協議会、緑土木事務所、なごや生物多様性センター）を組織して、池干しに向けて準備を進めてきました。池干しの効果をモニタリングするために、6月1日に泥厚の調査、6月14日、10月17日、11月16日に植生調査、植生図作図調査等を行いました。また、池干しの意義、池の成り立ちや現状を知って頂く目的で勉強会を10月14日に実施しました。さらに、11月3日に池干しの予行演習を兼ねてハゴロモモの除去を行いました。この予行演習のお陰で、順調に水も抜け大きな混乱もなく池干し当日は80名が参加し、約210名の見学者も来て大盛況で終えることができました。参加者の中には、平成28年度に行ったスキルアップ講座（地曳き網体験講座）に参加された方が池干しで地曳き網を体験し、環境教育や次世代育成の活動が繋がり嬉しく思います。さらに、池干し実行委員会の構成団体以外にも名城大学野生動物生態研究会や緑高等学校の学生にも手伝って頂きました。この若者のパワーがなければ池干しが成功しなかったと言っても過言ではありません。池干しの結果速報を12月6日の第52回定例会で報告しました。また、取り組みの様子は「緑区ホームサービス（中日新聞折込み）」の11月11日号・12月9日号と「サンデージャーナル（テレビ愛知）」の12月17日放送で紹介されました。

図 1．地曳き網の様子

● 池干しモニタリング調査

過去に池干しを実施した池やこれから行う可能性のある池についてモニタリング調査を実施しました。

〇茶屋ヶ坂池

平成 25 年に池干しが実施されてから、4 度目となるモニタリング調査を学生と協働で定量調査を実施しました。

図 2. 調査実施状況

日時 10 月 22 日

協働 名城大学野生動物生態研究会

〇 戸田川緑地（とだがわ生態園）

戸田川管理センターから池干し実施の相談を受け、現状を把握する目的で定量調査を 6 月（初夏）と11 月（晩秋）の計 2 回実施しました。また、通称「ミジンコ池」のヘドロの除去を 1 月に行いました。

日時 6 月 18 日、11 月 4 日、1 月 28 日

協働 名城大学野生動物生態研究会、戸田川緑地管理センター、戸田川ふるさと夢くらぶ

● 淡水貝一斉調査の補完調査（専門調査）

一斉調査は 9 月 1 日～ 3 日の間に市内 27 箇所で実施されました。加えて、アクセスが不便な場所や一般市民を入れての調査が困難な場所等の 34 地点で調査を実施し、名古屋市内に分布する淡水貝の把握に努めました。その結果、23 種の淡水貝が確認されました。詳しくは、なごや生きもの一斉調査～淡水貝編～ P.23 ～ 26 を参照下さい。

日時 8 月 28 日～ 9 月 21 日の間の 13 日間

協働 名城大学野生動物生態研究会

● ヒキガエルアンケート調査を受けての分布調査と mtDNA 解析

分布調査で得られた標本サンプル等を用いて mtDNA の解析を愛知教育大学の島田研究室の学生に卒業論文『ミトコンドリア DNA 塩基配列を用いた名古屋市及び周辺地域におけるアズマヒキガエルの遺伝的多様性の研究』としてまとめて頂きました。また、ヒキガエルアンケート調査結果が『アンケート調査に基づく名古屋市内のアズマヒキガエルの分布変遷』として爬虫両棲類学会報 第 2017 巻 2 号に掲載されました。

日時 通年

協働 愛知教育大学島田研究室

協力 豊田自然観察の森

● 名古屋市及びその近郊に分布するカエル調査

濃尾平野の名古屋市およびその近郊に分布するツチガエルが確認されている水田の用水（新木津用水）と隣接する用水にある平野部の水田においてツチガエルの分布を規定している要因を明らかにすることを目的に調査しました。

ツチガエルは通常、幼生で越冬し、翌年の 5 ～ 8 月に変態するとされるため、水稲耕作後もどこかに越冬可能な水辺が存在する必要があります。ツチガエルが確認されている名古屋市およびその近郊の水田は、水稲耕作後は完全に水がなくなり、越冬可能な生息場所は見当たらないものの集水枡等で越冬している可能性も否定できません。また、上流部の農業用水路から幼生が供給されている可能性もあります。そのため、名古屋市およびその近郊に分布するツチガエルが確認されている水田の用水（新木津用水）と、隣接する用水にある平野部の水田において鳴き声による分布調査を 9 市 3 町から 69 地点を選び、各地点での 3 分間の録音を、2017 年 5 月 22 日～ 26 日の期間と、6 月 19 日～ 24 日の期間に 2 度にわたって実施しました。録音実施の時間帯は日没後の 19：30 から 0：30 に行い、湛水状況と調査時刻も記録しました。また本調査

図 3. 水路に設置した罠の様子

中に鳴き声が確認された他のカエルついても記録し、ある程度鳴き声による種同定がその場で可能な場合には、任意で種名も記録しました。収集した録音記録は、スピーカーを用いて再生し、3 分間の中で確実な音声が 1 回でも聞こえた種について、当該地点で分布ありと記録しました。鳴き声の同定は、12 月と 1 月に学生と行いました。

また、新木津用水の取水口である犬山頭首工から導水される 5 月 26 日から 31 日の 5 日間、名古屋市においてツチガエルが確認されている水路に罠を設置しツチガエルの幼生が流れてこないかを調査しました（図 3）。さらに、鳴き声調査でツチガエルが確認された地点において幼生・幼体の調査を実施し、幼生が確認された場合は、採集して上陸する時期について調査しました。

調査の結果、今回調査した平野部の水田におけるツチガエルは、当年変態個体の可能性が非常に高いと考えられました。当年変態による上陸を可能にしている理由として、中干しの時期が遅いかもしくは中干しを行わない水田であることが挙げられます。これにより、主に 6 月頃に産卵して生まれた幼生が死滅することなく変態して上陸することを可能にしていると考えられます。

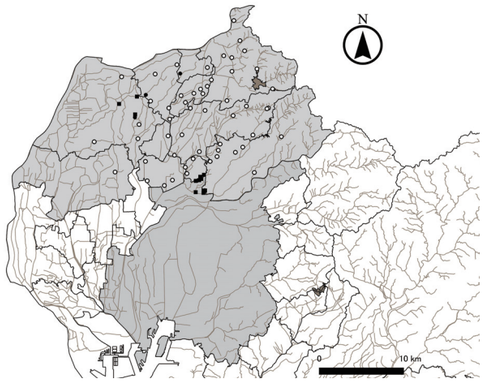


図 4. ツチガエルの鳴き声が聞かれた水田

〇：鳴き声が確認できなかった地点
▲：5 月のみ鳴き声が確認できた地点
■：6 月のみ鳴き声が確認できた地点
●：5 月・6 月とも鳴き声が確認できた地点

平成 28 年度の分布調査の結果を名古屋大学の夏原研究室の学生に卒業論文『名古屋市およびその近郊の土地利用がカエル類の分布へ与える影響』としてまとめて頂きました。

日時 5 月 22 日～ 31 日、6 月 19 日～ 24 日、7 月 18 日～ 19 日、9 月 11 日、9 月 30 日、12 月 14 日、12 月 21 日、1 月 11 日

協働 名古屋大学夏原研究室、名城大学野生動物生態研究会、名古屋コミュニケーションアート専門学校

● 水田・水路及びその周辺の生物調査

中川区の農業水路に生息するヌマガイとカワバタモロコの生息環境の把握を目的に生物調査と環境要因調査を実施しました。

日時 6 月 7 日、9 月 3 日、12 月 11 日、3 月 20 日

協働 名城大学野生動物生態研究会

● カワバタモロコの保護と生体標本の維持・管理

図 5. 黄金の婚姻色を呈したオスのカワバタモロコ

カワバタモロコは名古屋市において絶滅危惧 IA 類に評定されており、開発工事により生息地を失ったカワバタモロコを一時的に保護しています。また、この個体群は事前に行った mtDNA 分析により、濃尾平野の系統ですが独自のハプロタイプを有していることが分かっています。そのため、希少種と遺伝的多様性の保全の観点から、自然繁殖が可能な野外環境に放流し、個体群の保全を図ることとしました。放流を実現させるためには場所の選定、管理者との調整、事前調査など少なくとも今後 1 年以上の時間が必要ですが、本種は満 1 年で雌雄とも成熟し、寿命は野外で 1 年と考えられている（飼育下では 5 年以上生きる）ことや、保護した個体が採集後 1 年以上経過していることから、放流事業の実施までに個体の寿命が尽きることが危惧されました。

そこでなごや生物多様性センター内で本種の繁殖に取り組みました。その結果、産卵が 5 月 24 日～ 9 月 15 日で確認され、7712 個の卵を確認しました。また、2017 年 10 月 6 日時点で孵化し生存が確認された仔魚及び稚魚は 146 個体でした。さらに、2018 年 3 月 23 日に東山動物園に視察に伺いました。

日時　通年
協働　名城大学野生動物生態研究会

● 外来種対策

図 6. 雨池で採集されたアノマロクロミス・トーマシー

守山区雨池公園の雨池でアフリカ原産のアノマロクロミス・トーマシーが採集されました。豊橋市自然史博物館には標本の登録と計測に協力頂ききました。詳しくはなごや生物多様性センターの機関誌『なごやの生物多様性第 5 巻』に掲載しております。

日時　9 月 13 日
協力　豊橋市自然史博物館

● 園芸スイレン除去の普及啓発

水生植物部会（平成 28 年度から水辺の生きもの部会と合併）が園芸スイレンの除去活動を行っていた千種区東山新池において普及啓発活動を行いました。本池において、除去活動報告書「きれいなスイレンで困っています…」を用いて、実物を使った園芸スイレンの見分け方、園芸スイレンは葉の出るタイミングが早く、着実に水面を陣取ってしまうなど生態の解説を行いました。また、実際に池に入っての園芸スイレンの除去を体験して頂きました。なお、除去活動報告書「きれいなスイレンで困っています…」は以下の URL より閲覧できます。

URL　http://www.bdnagoya.jp/calendar/pdf/suiren_boujo.pdf

日時　10 月 17 日
協働　なごや東山の森づくりの会、市民調査員、名古屋市みどりの協会

図 7. 園芸スイレン除去の普及啓発

● 東山の水田における水田雑草調査

東山の森の「くらしの森」には、平成 21 年に造成された 3 面に分かれた約 480 ㎡の水田があります。この水田において平成 27 年度に絶滅危惧種のトリゲモ類が確認されました。稲作はこれまでと同様に除草剤や農薬を使わずにこれまで通り行われています。トリゲモ類とその他の植物も合わせて調査を行ったところトリゲモ類は変らず確認することができましたが、平成 28 年度調査と比較すると 3 面ある水田の一番下側の水田でしかトリゲモ類を確認することができませんでした。この理由については不明です。今後も引き続き変遷を調査する予定です。

日時　9 月 10 日
協働　なごや東山の森づくりの会

● 名古屋城におけるオニバスをはじめとした植物相調査

近年、名古屋城水堀に生育する植物相についての報告がみられません。そのため、平成 24 年 9 月に 20 年ぶりに確認されたオニバスをはじめ現状を把握する目的で、名古屋城水堀のヨシが繁茂する北東側において植物相調査を行いました。平成 28 年度では 6 月と 7 月に発芽直後と考えられる小さな浮葉が確認されましたが、10 月の調査では確認することができませんでした。今回調査では、7 月に 8 箇所でオニバスを確認することができ、その半分に当たる 4 箇所で 9 月にも再確認することができました。

外来種対策として平成 26 年度から平成 28 年度にかけて定置網等を用いてミシシッピアカミミガメを含む外来種を取り除いてきました。ミシシッピアカミミガメは成長に伴い植物食傾向が強くなるため、オニバスをはじめとする水草にとってミシシッピアカミミガメの減少がプラスに働いた可能性があります。

日時　7 月 3 日、9 月 26 日

● 部会の開催

今年度は、4 回の部会を開催しました。

日時　5 月 9 日、8 月 18 日、12 月 12 日、2 月 19 日

● その他

碧南海浜水族館の特別展示「ヘビやカエルを好きになる 7 つの話～あいちの両生類・爬虫類～」への協力と還元（映像提供）。

今後について

池干しモニタリング調査など継続調査が必要なものは引き続き行います。また、新しいテーマや、調査を基に課題が見つかったものについても調査を行います。また、これまでにデータの蓄積があるものは取りまとめ、知見を広く一般に公開し、生物多様性保全への寄与を図るとともに、積極的に、協働調査、スキルアップ講座など普及啓発を行っていく予定です。活動の内容や趣旨に賛同して頂けて一緒に活動しようという意欲のある方の参加を随時求めていますので気軽にお問い合わせ下さい。

生物情報モニタリングデータベース部会

生物情報モニタリングデータベース部会 部会長・名城大学農学部　橋本 啓史

はじめに

生物情報モニタリングデータベース部会では、協議会の行う生物調査・既存文献・市民の通報などから得たなごやの生物多様性の現況についての情報を集約・一括管理するとともに、集約された生物情報を広く提供するツールとして活用することを目的として、平成 23 年度からデータベースの構築を行っている。

主な活動内容

なごやの生物情報の市民通報の窓口となるデータベース登録システムと、集約された情報を基に分布（確認）状況を地図上に表現する解析・発信システムを協議会ウェブサイト上で稼働させており、25 種の生物の分布情報の収集と 6 種の分布図の発信を行っている。

生物情報モニタリングデータベースのページ
http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html

平成29年度の活動記録

● 部会の開催

今年度は 2 回の部会を開催した。

● 生物情報の収集・登録・発信

〇市民からの生物情報の収集

協議会のウェブサイト上に設置した『生きもの情報登録フォーム』を使い、広く市民から目撃情報の募集を行った。情報を募集したのは、今年度からウシガエル 1 種追加し、表 1 に示す 25 種類の動植物である。また、協議会会員と市民調査員へ 5 回メールでその時期の注目種をお知らせし、情報提供を呼びかけた。

今年度は（平成 29 年 3 月から平成 30 年 2 月 26 日までに）、25 件の情報が寄せられた。昨年度の 54 件に比べて半減した。種別ではヌートリアの 6 件が最多であった。

なお、寄せられた情報は管理者等が確認し、信ぴょう性の低いものを除いて、生物情報モニタリングデータベースに登録し、蓄積している。

表 1. 情報を募集している生物の一覧

哺乳類	アライグマ、タヌキ、ハクビシン、ヌートリア
鳥類	ソウシチョウ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、コアジサシ
は虫類	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ミシシッピアカミミガメ
両生類	ニホンアマガエル、アズマヒキガエル、ウシガエル
魚類	アユ、ニホンウナギ、サツキマス、アマゴ
昆虫	タイワンタケクマバチ、クマバチ、ムネアカハラビロカマキリ、ハラビロカマキリ
植物	オオキンケイギク、外来スイレン

〇協議会の調査結果等のデータベースへの登録

協議会で行った生物調査の結果をデータベースに登録するため、データの整理や標本目録の作成を進めた。また、分類群によっては作成の遅れている種のマスターデータの作成に向けての検討や資料の収集・購入を進めた。

〇生物情報のウェブサイト上での提供

ウェブサイト上に公開したデータベースに登録した情報を基に、分布（確認）状況を三次メッシュで地図上に表現するシステム（なごや生物情報閲覧システム）の維持・管理を行った。

なごや生物情報閲覧システムを介して広く一般に情報を公開する種は、希少種を除き、ある程度の情報が蓄積された種から順次、システムで情報を公開している。現在公開しているのは、オオキンケイギク、外来スイレン、ヌートリア、ソウシチョウ、ツバメ、ミシシッピアカミミガメの計 6 種である。

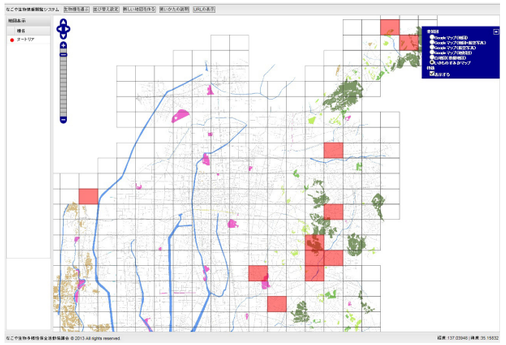


図 1. なごや生物情報閲覧システムでヌートリアの分布（確認）状況を表示した時の例

〇写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成

寄贈された過去のなごやの自然の写真・フィルムを活用するため、昨年度より写真・フィルムのデジタルデータ化を開始した。今年度は寄贈された写真・フィルムの撮影対象物の確認を終え、デジタルデータ化する作業を進めているところである。東部丘陵の戦前・戦後直後の空中写真も昨年度に購入したので活用頂きたい。

〇空中写真の蓄積（ドローンによる空撮）

外来植物対策等を実施中の緑地・ため池等を対象に、植生の経年変化を記録に残すため、ドローンによる空撮を行う事業を昨年度から開始した。対象地は外来スイレンが分布を広げている猪高緑地内の塚ノ杁池として、10 月下旬に業者に委託してドローンで空撮を行った。複数枚に分割して撮影された写真を合成して池全体が 1 枚に収まったオルソ画像（垂直写真）にした。一昨年度も部会活動とは別に同時期に当地のドローン撮影をしており、3年間の変化を見ることができる（図 2）。詳細な検討は、今後、水辺の生きもの部会とも連携して行っていきたい。

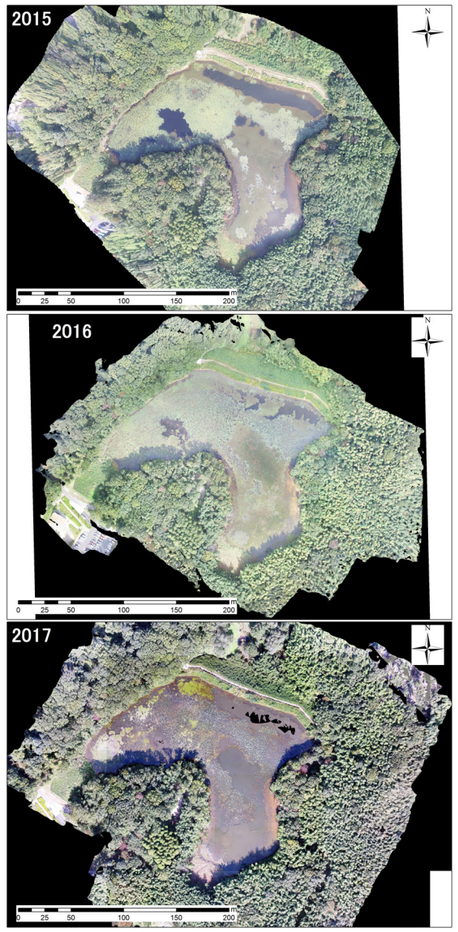


図 2. 10 月下旬の塚ノ杁池のオルソ画像。上から 2015 年、2016 年、2017 年。

今後について

部会での議論により、今後はこれまで通り生物情報の収集・登録・発信を行っていく他に、昨年度から開始した 2 つの活動も継続して進めていくこととなった。

市民からの生物情報の提供数が伸び悩んでいることから、呼びかけ方法を再考していきたい。また、閲覧できる分布図も増やしていきたい。

オオキンケイギク対策部会

オオキンケイギク対策部会 部会長　野中 賢輔

オオキンケイギクとは

オオキンケイギク（ 学名：*Coreopsis lanceolata*）とは北アメリカ原産のキク科の多年草で、背の高さは 30 ～ 70cm、毎年 5 月～ 7 月ごろにコスモスに似た黄色い花を咲かせます。明治時代に輸入され、戦後は緑化工事に多く使用されました。ところが繁殖力が強すぎて在来種のカワラナデシコなどを駆逐してしまう侵略性が問題となり、2005 年に特定外来生物に指定されました。

なごや生物多様性保全活動協議会では 2013 年に市民 200 名でオオキンケイギクの名古屋市内分布調査を行い、庄内川や天白川の河川敷に多数分布していることを確認しました。その後、オオキンケイギクを駆除していくために 2014 年に「オオキンケイギク対策部会」を設立しました。部会員は 9 名です。

昨年までの主な活動内容

「オオキンケイギク部会」が 2014 年初めに行った活動は駆除実験です。矢田川のふれあい橋付近で①抜き取り②刈取り③花切りの 3 つの駆除方法を毎週続けて 9 週間試行し、再生状況を検証しました。結果的には①の根ごと抜取り法だけが再生率 18% と駆除効果を確認できました。

①抜取り法	②刈取り法	③花切り法
再生率 18%	826%	161%

2015 年度からは山崎川の河川敷において駆除活動を始めました。名古屋建設業協会とも連携して、市民調査員、部会スタッフで活動してきました。3 年間の駆除活動実績は表のとおりです。

日付	人数	40 リットル袋
２０１５年度	延べ２１６人	９３袋
２０１６年度	延べ２１１人	１５３袋
２０１７年度	延べ５４人	２９袋

今年度の活動報告

2017 年度は、恒例の名古屋建設業協会の活動日が大雨のため、残念ながら中止となりました。人数・袋数が減っているのはそのためです。

● 5月20日市民による抜き取り会

呼びかけに応募してくれた市民調査員を含む市民合計 32 人で 5 月 20 日に抜取り活動をやりました。集合した豊岡コミュニティセンターで勉強会を開いて、1. 特定外来生物について、2. 抜き取り方、3. 見分け方などの説明をきいてもらいました。そして「外来種が悪いのではなく運んできた人間が悪いのだからゴメンネと言う気持ちで駆除しましょう」と呼びかけました。その後全員で出発し、3 カ所で抜き取り活動をしました。毎年抜いても再生してしまうので、今年からは新兵器「根堀りガマ」を使って根をしっかり掘ることにしました。

▲ 根掘り用の鎌

子供さんも参加されたので、安全な場所を選んで、移動しながらの抜き取りになりました。オオキンケイギクを良く知らない人もいたので良い経験になったと思います。

今回は嬉しいことにテレビ局が取材に来てくれました。「テレビ愛知」さんと「名古屋テレビ」さんです。外来種駆除を放送してくれると多くの人に知ってもらえるので大変ありがたかったです。「オオキンケイギクは可愛い花だけど、増えすぎて日本の環境には迷惑で、法律でも禁止されている」と言うことを多くの市民に共有してもらいたいです。

● 6月6日～27日 部会スタッフ

その後 6 月いっぱいはオオキンケイギク対策部会のスタッフ数名で、おもに山崎川の昭和区内のオオキンケイギクを駆除して行きました。この地域では河川敷内の擁壁が数メートルから 10 メートルも切り立っており危険を伴うため、ヘルメットやザイルを使っての駆除活動になります。4 回の活動で 20 袋のオオキンケイギクを抜き取り駆除できました。活動中は市民からの質問に答えることも多く、市民啓発にも役立てたと思います。

● 2月24日 部会スタッフ冬の抜き取り活動

しかし駆除活動を続けても萩山橋のあたりには埋土種子が多いのか、大量に再生してしまうため、今年も冬のオオキンケイギク抜取り活動をやることにしました。。冬期は他の雑草が行政により草刈りされた後なので、比較的小さいオオキンケイギクの特徴的な芽を見つけやすく抜きやすいのです。

2 月 24 日に部会スタッフ 6 名で 3 袋分のオオキンケイギクのロゼットを引抜きました。

今後について

2018 年度も継続して山崎川河川敷のオオキンケイギク駆除活動を続ける計画です。

名建協、市民募集、部会スタッフによる活動になる予定です。特に 5 月 19 日（ 土 ）には市民参加による駆除会を行うので、興味のある方はなごや生物多様性保全活動協議会（tel/052-700-7792）にお問い合わせください。

里山林・社寺林部会

なごや生物多様性センター 長谷川 泰洋／名城大学 橋本 啓史／雑木林研究会 眞弓 浩二

はじめに

里山林・社寺林部会は、昨年度の会員活動支援「里山林における植物相及び植生の質調査」及び準備会４回を経て、今年度に発足しました。

本部会は、なごや生物多様性保全活動協議会の活動の中で、これまでに対象に出来ていなかった里山林や社寺林等の樹林地を対象として、その保全管理の効果や植生の質（郷土種の保全状況、希少種、巨樹の分布・生育適地等）の調査を進め、より生物多様性保全に資する保全手法を開発し、啓発に資する知見を集積することを目的にしています。

部会事業には、昨年度の会員活動支援における活動（調査①: 相生山緑地のアカマツ再生区、調査②: 同緑地の広葉樹二次林、調査③: 名古屋大学構内の二次林を対象に植生調査）を継続・発展させると共に、希少種の生育環境調査、巨樹・巨木の生育状況調査、外来種・郷土種使用の実態及び意識に関するアンケート調査を追加しました。調査系の事業では、対象とした緑地の特性に応じた調査活動を展開し、里山保全活動の指標となりうる希少種の成長記録や生育環境を明らかにするための調査、名古屋市で初記録となる植物の発見など、活動初年から、有意義な成果を得ることが出来ました。

調査活動の詳細や分析結果は別稿にて報告する予定です。本報告では、各事業の活動記録と主な成果の概要を報告します。

平成29年度の主な活動

１．里山・社寺林における植生のモニタリング調査
- アカマツ林育成地のモニタリング【相生山緑地・大高緑地】
- 樹林地保全地のモニタリング【相生山緑地・天白渓】
- 竹林管理地のモニタリング【猪高緑地】

２．ラン類、ユリ類等貴重種の生育環境調査
- ラン類の生育環境調査【主要緑地＊希少種のため場所は非公開】
- ササユリの成長調査、生育環境調査【平和公園、大高緑地】
- クロミノニシゴリの生育環境調査【滝ノ水緑地】

３．外来種・郷土種使用の実態及び意識に関するアンケート調査
- 名古屋市内神社管理者（約 440 社）に対して、植樹及び植物の駆除についてのアンケート調査を実施。結果の集計、解析は次年度事業として予定。

４．巨樹・巨木の生育状況並びに保全状況に関する調査・啓発活動
- 巨樹のサイズ計測【大高緑地（大高竹の会の活動エリア内）】

平成29年度の活動記録

主な活動から、現段階で成果がかたちとなりつつある活動について、その概要を報告します。

● 竹林管理のモニタリング

- 期間：2017 年 4 月
- 場所：猪高緑地、竹林皆伐エリア（図１）
- 内容：猪高緑地では、モウソウチクの生育範囲拡大を抑制するために、一部の竹林を皆伐しています。本活動では、モウソウチク林の皆伐後の植生の変遷をモニタリングするため、皆伐前の竹林の植生及び光環境を記録しました。
- 連携・協働：名東自然倶楽部
- 主な成果：皆伐前の植生と皆伐した後の植生の変遷をモニタリングしていきます。本モウソウチク林及びその周辺には、コクランなどのラン類の群落が存在します。今後の二次林への遷移をモニタリングして、竹林皆伐後に生物多様性の高い二次林を育成、保全していくための方法を検討していきます。

● ラン類の生育環境調査

- 期間：2017 年 4 月～ 2018 年 2 月
- 内容：名古屋市内においても、全国的に絶滅危惧種とされるラン類が見られます（図２～３）。本活動では、こうしたラン類が生育適地とする環境の特性を明らかにして、今後のよりよい保全手法を検討していきます。主要緑地で観察された群落を対象に、2m 四方の調査枠を作り、個体数及び個体サイズの計測、光環境、土壌環境等の環境調査を実施しました。
- 連携・協働：名東自然倶楽部、名古屋工業大学学生、名古屋大学全学技術センター職員
- 主な成果：今後、計測したデータを基に、個体数の多い場所と少ない場所、ない場所との環境の差を明らかにしていきます。

● ササユリの成長調査、生育環境調査

- 期間：2017 年 3 月～ 2018 年 2 月
- 場所：平和公園、大高緑地
- 内容：近年の里山の常緑広葉樹林化により、光を多く必要とする草本の絶滅が危惧されています。本調査では、その中の一種であるササユリに着目して、その生育適地を明らかにすると共に、実際に光の入る二次林を保全するための除伐作業を３カ年計画で実施しています。
- 連携・協働：NPO 法人 なごや東山の森づくりの会、大高竹の会
- 主な成果：生育環境が異なる複数の場所でササユリ群落の成長記録を録ると共に、その環境調査（光環境、土壌環境等）を行いました（図４）。今後は、成長記録と群落間の環境との関連性を分析して、ササユリの生育適地を明らかにしていきます。

● クロミノニシゴリの生育環境調査

- 期間：2017 年 5 月～ 10 月
- 場所：滝ノ水緑地
- 内容：本調査では、東海丘陵要素植物の一つとされるクロミノニシゴリの開花特性を把握するため、個体数・分布・サイズの記録作成、自家和合性の検証、開花環境の把握を行いました。自家和合性の検証には、開花予定の枝に交配実験用の袋をかける袋掛けの実験を行いました（図５）。
- 連携・協働：滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会、名城大学学生
- 主な成果：袋がけの結果、クロミノニシゴリは、自家受粉可能な自家和合性である可能性が高いことが明らかになりました。今後は、調査した個体サイズや分布、立地環境のデータを解析して、これらの要素が開花及び結実に及ぼす影響を把握していきます。

● 巨樹・巨木の生育状況並びに保全状況に関する調査・啓発活動

- 期間：2018 年 1 月
- 場所：大高緑地（大高竹の会活動エリア）
- 内容：市内の巨樹の記録は、社寺林などの民有地の保存樹か名木などの情報に限られています。本調査では、主要緑地内の巨樹の樹種、サイズ等を計測して、記録を蓄積していきます。2018 年度は、大高緑地内の主要な巨樹のサイズを計測しました（図６）。
- 連携・協働：大高竹の会
- 主な成果：保存樹のデータと比較して、市内最大となるヤマザクラやヤマモモを記録することが出来ました。
- ヤマザクラ（4 本株立）【樹高：12.6m、胸高直径：70cm/50cm/42cm/35cm、枝張り：11.6m】
- ヤマモモ：【樹高：13.7m、胸高直径：83cm、枝張り：9.1m】
- ツブラジイ：【樹高：14.9m、胸高直径：104cm、枝張り：10.3m】

図 1. 竹林皆伐前の様子、竹林内のコクラン

（2017 年長谷川泰洋撮影）

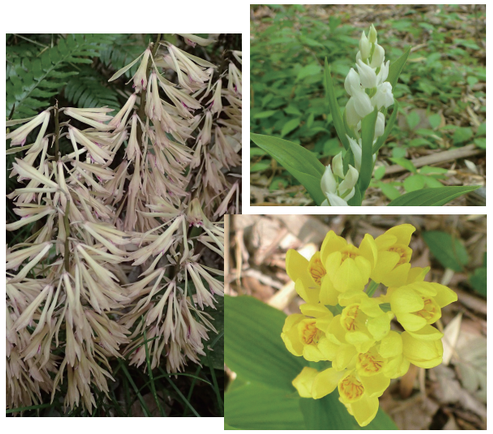


図 2. サイハイラン、ギンラン、キンラン

（2017 年、左 : 長谷川泰洋、右上・右下 : 高木和彦撮影）

図 3. ジガバチソウ、クロヤツシロラン

（2017 年長谷川泰洋撮影）

図 4. ササユリの花、成長調査の様子

（2017 年、左:山下紀雄、右上:守口幸一、右下:梅本洋子撮影）

図 5. クロミノニシゴリ、袋がけの様子

（2017 年長谷川泰洋撮影）

図 6. 大高緑地の巨樹の計測、ヤマザクラ

（2018 年長谷川泰洋撮影）

今後について

次年度は本年度の事業に加えて、里山林の成長履歴を把握するための樹幹解析、マメナシの萌芽調査を予定しています。

【広報部会】

なごや生きもの一斉調査 ～淡水貝編～

愛知みずほ大学人間科学部　川瀬 基弘／なごや生物多様性センター　寺本 匡寛

はじめに

2017 年 8 月 28 日～ 9 月 21 日にかけて名古屋市内全 61 地点（一般調査 27 地点と専門調査 34 地点）で淡水産貝類（以下、淡水貝）の一斉調査が行われました。一般調査は、9 月 1 日～ 3 日までの 3 日間で、市民の方々が中心になって調査が行われ、幼児～ 80 歳代の方々まで幅広い年齢層の参加がありました。参加者の多くは初心者ですが、調査地点ごとに代表者（調査リーダーとサブリーダー）を決め、代表者の方々には事前に専門家の講義形式による講習会を受講して頂き、専門家による現場での調査方法を体験して頂きました。代表者が調査本番の引率者として、参加者に調査方法や淡水貝を見つけるコツなどを説明しました。なごや生物多様性保全活動協議会の Web には、実際の調査風景や淡水貝を採集している様子などを動画に記録し、どなたでも事前に閲覧できるような工夫をしました。専門調査は、アクセスが悪かったり、安全面に配慮が必要な場所など、物理的に調査が困難な場所を中心に行われました。

一斉調査期間中は、専門家や市民をあわせて 219 人もの参加がありました。市民参加型と専門家による調査が融合した淡水貝の一斉調査は、全国でも初めての事例です。

主な活動内容

実施団体

なごや生物多様性保全活動協議会、なごや生物多様性センター、
名古屋市内の各種自然関係（保全）団体及び個人
協力：川瀬基弘、名古屋市立大学生物多様性研究センター

実施内容

1）リーダー研修
　7 月 12 日（水）・7 月 15 日（土）
　参加人数：39 名
　実施場所：なごや生物多様性センター 2F 会議室、植田川

2）一斉調査（一般調査）
　9 月 1 日（金）・9 月 2 日（土）・9 月 3 日（日）
　参加人数：219 名
　調査地点：27 地点

3）一斉調査補完調査（専門調査）
　8 月 28 日（月）～ 9 月 21 日（木）までの 13 日間
　調査地点：34 地点

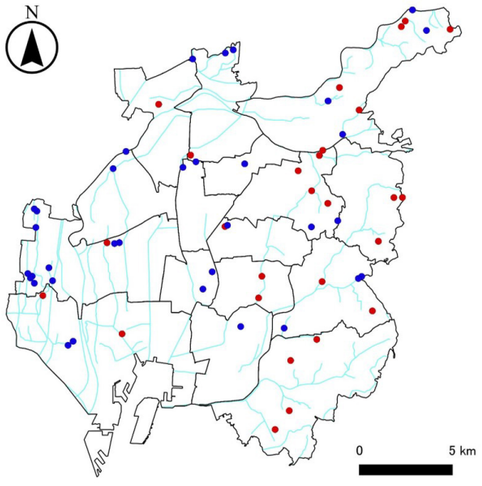


図 1. 調査地点

●一般調査 (27 地点)　●専門調査 (34 地点)

4）調査結果速報

●調査結果速報①

第 4 回なごや生物多様性センターまつり

（なごや生きものトーク！）「新発見！名古屋の淡水貝」（10 月 28 日〈土〉）

発表者：川瀬基弘（愛知みずほ大学人間科学部）

●調査結果速報②

なごや生物多様性センター発行

「生きものシンフォニー いのちかがやくなごや 23 号」（平成 29 年 12 月）

調査結果概要

● 名古屋市内からこんなに沢山！

一斉調査による名古屋市内 61 地点から発見された淡水貝は 23 種 4,546 個体で、都市化の進んだ名古屋市内にも豊かな自然が残されていることがわかりました。各地点の平均発見種数はわずか 3.25 種ですので、多くの参加者により多様な環境が調査された結果が 23 種もの発見に結びつきました。発見個体数が最も多かったのは中川区八田（水の広場）の 445 個体で、次いで港区荒子川公園（日本庭園）の 399 個体でした。全 61 地点中、最も多くの地点で確認されたのはサカマキガイ（42 地点）（図 2）、次いで、ヒメタニシ（30 地点）（図 3）でした。

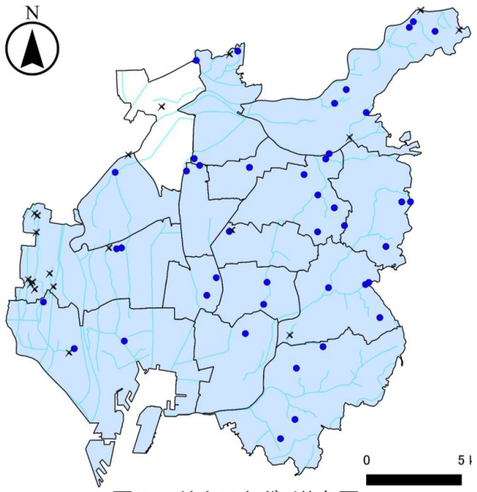


図 2.　サカマキガイ分布図

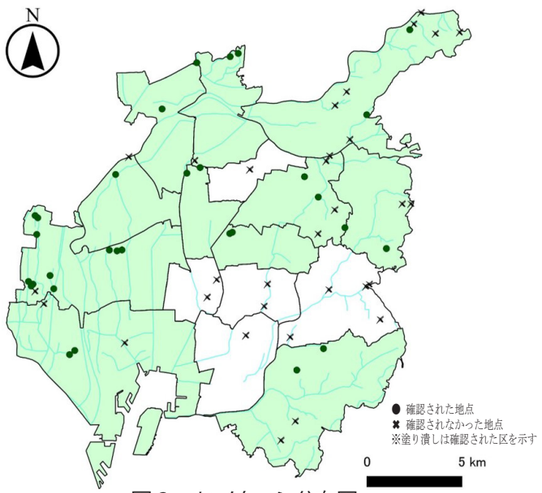


図 3.　ヒメタニシ分布図

サカマキガイ ＊

ヒメタニシ ＊

● アメリカ原産やヨーロッパ原産など外来種も続々！

外来種は国内移入種を含めると、スクミリンゴガイ（アルゼンチン原産）、ハブタエモノアラガイ（北アメリカ原産）、モノアラガイ属の一種 A と B（A と B 共に原産地不明）、サカマキガイ（ヨーロッパ原産）、ヒロマキミズマイマイ（北アメリカ原産）、ワイワンシジミ（中国・朝鮮原産）、ヌノメカワニナ（国内移入種）、クルマヒラマキ（国内移入種、名古屋市初記録、環境省の絶滅危惧Ⅱ類）の 9 種も発見されました。外来種が多いのは都市型生態系の特徴であり、既に分布を広げたこれらを取り除くのは困難ですが、更なる分布拡大を最小限にとどめ共存も考えなければならないでしょう。

スクミリンゴガイ

ハブタエモノアラガイ ＊

モノアラガイ属の一種Ａ

モノアラガイ属の一種 B ＊

ヒロマキミズマイマイ ＊

タイワンシジミ ＊

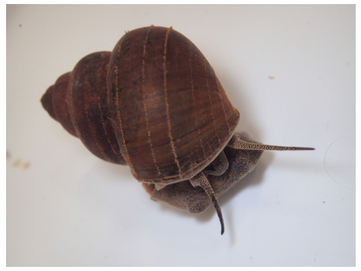
ヌノメカワニナ ＊

クルマヒラマキ

＊：鳥居 亮一 撮影

● 貴重なデータがどんどん増加！

名古屋市で絶滅危惧ⅠA 類に評定されているマルタニシとマシジミ、絶滅危惧ⅠB 類のヌマガイ、ウエジマメシジミ、絶滅危惧Ⅱ類のオオタニシ、準絶滅危惧のヒラマキミズマイマイやヒラマキガイモドキのレッドリスト掲載種 7 種、市内初記録としてクルマヒラマキ（瑞穂区山崎川［ 鼎小橋 ］）が発見されました。また、情報量が不足していたヒメヒラマキミズマイマイとドブシジミの棲息地点数が極めて少なく、新たに名古屋市レッドリストに掲載すべき希少種であることが判りました。

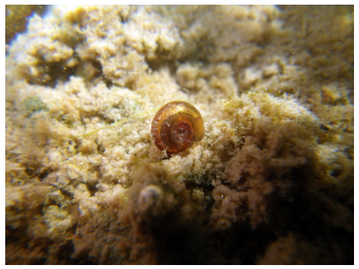

マルタニシ

マシジミ ＊

ヌマガイ ＊

ウエジマメシジミ

オオタニシ ＊


ヒラマキガイモドキ ＊

● 淡水貝は生物多様性の“ものさし”

今回、調査参加者から「身近な川や池に 2 ～ 3mm 程度の微小な淡水貝がたくさん棲息していて、肉眼では見落としてしまいそうなサイズに驚いた。」という感想が多く寄せられました。淡水貝は河川、水路、ため池、湿地など多様な環境に適応しています。自然度の高いところにしか生息しない種、わずかな水量でも生存できる種、汚濁の進行した水域にも耐性をもつ種など、このような指標性から調査地の環境や自然度を診断することができます。淡水貝はとても身近な親しみやすい生きものです。また、子供から大人まで誰でも気軽に捜せます。そして今後も新しい発見が期待できます。

今回の調査結果や考察など、詳しくは「なごや生きもの一斉調査 2017 ～淡水貝編～」報告書にまとめる予定です。報告書は Web 上に公開いたしますので興味のある方は、なごや生物多様性保全活動協議会ウェブサイトにてご覧ください。

なごや生物多様性保全活動協議会ウェブサイト：http://www.bdnagoya.jp/

【広報部会】

なごや生物多様性サマースクール2017

広報部会 部会長　眞弓 浩二

はじめに

当協議会では生物多様性を知る第一歩として、小中学生を対象に、子どもたちが参加しやすい夏休みを利用して「なごや生物多様性サマースクール」を行っています。

「夏休みの宿題応援します！」をテーマに、子どもたちの夏休みの自由研究の助けとなるよう、協議会会員が指導者となり、専門知識を活かした講座を開催。森や川など身近な自然環境に生息する生きものたちに、直接出会えるフィールドワークから、室内でじっくり学ぶ実習まで、幅広い講座を準備しています。

今まで気付かなかったことや、普段見ることができない世界に、目を輝かせる子どもたち。わくわくする楽しい活動が貴重な体験や学びにつながり、少しでも生物多様性に関心を持ってもらうきっかけ

平成29年度の活動記録

企画名称
なごや生物多様性サマースクール 2017

開催期間
平成 29 年 7 月 8 日（土）～ 8 月 10 日（木）

講 座 数
全 14 講座

参加者数
延べ 234 名

講師人数
延べ 70 名

チラシ

① チョウ・甲虫の採集と標本づくり

講師 名古屋昆虫同好会
日時 7 月 8 日（土）9:00 ～ 15:30
会場 午前：猪高緑地
午後：なごや生物多様性センター
対象 小学生以上　**定員** 60 名

② 昆虫生息調査

講師 荒池ふるさとクラブ
日時 7 月 22 日（土）10:00 ～ 15:00
会場 荒池緑地・農業センター
対象 小・中学生　**定員** 15 名

③ 翠松園緑地の昆虫探し

講師 二つ池の自然と緑を守る会
日時 7 月 22 日（土）10:00 ～ 12:00
会場 翠松園緑地
対象 小・中学生　**定員** 20 名

④ 葉っぱの力！標本を作ろう&葉っぱを味わう

講師 相生山緑地自然観察会
日時 7 月 23 日（日）10:00 ～ 12:00
会場 なごや生物多様性センター
対象 小・中学生　**定員** 15 名

⑤ 見てみよう！川の生きもの

※サマースクール 2016 の同講座の様子

講師 NPO 法人　日進野菜塾
日時 7 月 26 日（水）9:45 ～ 11:45
会場 日進市本郷／岩崎川・田んぼ
対象 小・中学生
定員 30 名

※天候不順により中止しました。

なごや生物多様性サマースクール2017

⑥ 矢田川・香流川の生きもの調べ

講師　名古屋市環境科学調査センター
日時　7月27日（木）9:45～12:00
会場　矢田川・香流川
　　香流橋地域センター
対象　小・中学生
定員　20名

⑦ 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう!

講師　相生山緑地オアシスの森ぐらぶ
日時　7月31日（月）9:45～12:00
会場　相生山緑地オアシスの森
対象　小学5年生～中学生
定員　10名

⑧ 生きものが棲む猪高の水を調べよう

講師　名東自然倶楽部
日時　8月1日（火）9:30～12:00
会場　猪高緑地
対象　小学4年生以上
定員　20名

⑨ 東山の森の落ち葉と土の中の生きものたち

講師　なごや東山の森づくりの会
日時　8月5日（土）9:30～12:00
会場　東山の森・里山の家
対象　小・中学生
定員　15名

⑩ 竹林調査と水鉄砲作り

講師　花水緑の会（大高竹の会）
日時　8月5日（土）9:30～12:00
会場　大高緑地・メタセの竹林
対象　小学3年生以上
定員　20名

⑪ チリメンモンスターを探せ！

講師　「あいちの海」グリーンマップ　他
日時　8月6日（日）8:30～15:00
会場　南知多町大井公民館・大井の海岸
対象　小学4年生以上
定員　35名

⑫ 天白川の水源を訪ねてみよう

講師　名古屋自然観察会
日時　8月6日（火）9:30～12:00
会場　日進市／岩藤川上流部
対象　小学3年生～中学生
定員　20名

⑬ 大矢川源流域の生きもの調べ

講師　愛知守山自然の会
日時　8月9日（水）10:00～12:00
会場　東谷山山麓／大矢川源流域
対象　小・中学生
定員　20名

⑭ 池のプランクトンの世界

講師　滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
　　名古屋市環境科学調査センター
日時　8月10日（木）10:00～15:00
会場　午前：茶屋ヶ坂池・緑ヶ池
　　午後：なごや生物多様性センター
対象　小・中学生
定員　20名

定例会

はじめに

定例会は、協議会メンバーの親睦を深めるため「お互いを知ろう」、「お互いに学び合おう」をテーマに2012年10月から始まりました。

平成27年度までは毎月1回の開催でしたが、28年度から偶数月の第1水曜日と、2ヶ月に1回の開催に変更となりました。スピーカーの選出は、各月の担当幹事が決めます。幹事自身がスピーカーとなったり、紹介したいと思う方を招いて、自分達の活動の紹介や、研究しているテーマなどをお話ししていただいています。

開始当初は協議会メンバーに限られていましたが、今は市民調査員や一般の方も参加できるようになっています。日頃聞くことのできないディープな内容のお話を、スピーカーの方からわかりやすく解説していただける機会はなかなかありません。そんなこともあってか、毎月この会を楽しみにしている常連さんも増え、時には大学生ばかりでなく小学生まで参加される事もあり、この会の広がりを感じています。

来年度も偶数月の第1水曜日、午後7時から、場所はなごや生物多様性センターの会議室で開催します。皆さんの参加をお待ちしております。

また、スピーカーとしてお話ししていただける方も募集しております。

図．定例会の様子

● 開催実績（平成29年4月～平成30年2月まで）

回	月日	発表者		内容	参加人数
48	4/5	担当幹事　矢部　隆（日本カメ自然誌研究会）			17
		愛知学泉大学教授	矢部　隆	国際爬虫類両生類学会第8回大会	
49	6/7	担当幹事　石原 則義（愛知守山自然の会）			28
		前名古屋工業大学保全生態研究室	豊田　大介	守山区のマメナシについて	
		守山区役所地域力推進室	横山　栄二	マメナシの保全活動における市民・大学・行政の連携について	
		蛭池のマメナシを守る会事務局	福岡　潔	蛭池のマメナシを守る会の活動について	
		ええとこ守山案内人	浅井　保司	マメナシの紹介活動について	
50	8/2	担当幹事　小菅　崇之（なごや生物多様性保全活動協議会）			33
		なごや生物多様性保全活動協議会	小菅　崇之	名古屋で見られる水草	
		名城大学農学部野生動物生態研究会	加藤　航大	カワバタモロコの保全	
		名城大学農学部	今井　洸貴	環境保全学生連合の活動について	
51	10/4	担当幹事　間野　隆裕（名古屋昆虫同好会）			26
		アジア航測㈱経営本部ＣＳＲ推進室	松沢　孝晋	名古屋市の地形・環境・トンボの生息について	
				名古屋市白鳥庭園の水辺環境とトンボ	
52	12/6	担当幹事　鷲見　順子（滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会）			20
		滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	鷲見　順子	滝ノ水北池の池干しを終えて調査結果速報と今後の課題	
		なごや生物多様性センター	寺本　匡寛		
53	2/7	担当幹事　橋本啓史（名城大学農学部生物環境科学科准教授）			28
		名城大学農学部4年	塚本　彩香 森　あつこ	『2017年度 里山林・社寺林部会の活動成果』 ①ガマズミ属の開花・結実特性	
		なごや東山の森づくりの会	山下　紀雄	②ササユリの保全活動の成果	
		大高竹の会	梅本　洋子		
		なごや生物多様性センター	長谷川　泰洋	③クロミノニシゴリの開花特性、ネザサの開花	
				【おまけ】新たに見つかったなごやの希少植物	

会員活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員が行う地域活動に対し、その活動の活性化と、それを通したなごやの生物多様性の保全を目的に、活動支援を行っています。支援内容は以下のとおりです。

- ▶ 調査機材の貸出
- ▶ 講師・専門家等の派遣やそれに伴う会場借上げにかかる費用
  （調整等は会員が実施、協議会は費用を負担。1件あたり上限30万円相当）
- ▶ 市民生きもの調査員への催事案内（月1回・メールのみ）

平成29年度は、以下の活動について支援を行いました。

平成29年度　活動一覧

実施団体名（敬称略）	活動内容
大高緑地湿地の会	花木園におけるトンボ相の調査
NPO法人 なごや東山の森づくりの会	なごや東山の森(緑地保全地区)灯火採集
荒池ふるさとクラブ	荒池緑地昆虫生息調査・水辺の生きもの調査
山崎川グリーンマップ	夏休み 山崎川生き物観察会
滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	昆虫採集＆観察会 in 滝ノ水緑地
花水緑の会（大高竹の会）	竹林管理の土壌調査
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち	外堀を知ろう！体験会
名古屋昆虫同好会	講演会開催
愛知守山自然の会	東谷山南西湿地ボーリング調査の報告会
日本カメ自然誌研究会	日本カメ自然誌会議

上記以外、なごや外来種を考える会、名城大学などへの物品の貸出も行いました。

● 平成29年度　市民調査員への催事案内　件数

月	H29年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H30年 1月	2月	3月
件数	2	3	3	4	4	2	2	8	2	1	4	3

花木園におけるトンボ相の調査

大高緑地湿地の会　大主 順一

はじめに

大高緑地花木園にて湿地活動が 14 年目に入った時に、以前観察されていたトンボが湿地で見られなくなっていました。考えてみれば 2～3 年前からトンボの種類・数ともに減っていることに気がつきました。そこで、湿地のトンボ・ヤゴ調査を行うことにしました。

調査結果

● ヤゴ調査結果

2017 年 4 月 9 日と 5 月 28 日に源泉及び湿地の池 4 つの池さらいと仕分けを行いました。調査はなごや生物多様性センターとの共同で行い、特に仕分けはセンターの方に行って頂きました。

▲ 池さらいと仕分け風景

表 1.　ヤゴ調査結果

場所	種　名
源泉	オニヤンマ、シオカラトンボ
入口の池	オニヤンマ、シオカラトンボ
下池	アオイトトンボ、オオアオイトトンボ、シオカラトンボ
たまり池上	シオカラトンボ
たまり池下	ギンヤンマ、シオカラトンボ

● トンボ調査結果

トンボの調査は、湿地の会メンバーと第一日曜日の自然観察会メンバーにも協力を頂き行いました。調査は 6 月から 10 月まで行って、証拠を残すために写真及びビデオ撮影をするようにしました。ただ、場所の特定が出来ないものもありました。

表 2.　トンボ調査結果

種　名	産卵	場　所
アジアイトトンボ		
クロイトトンボ		下池
オニヤンマ	○	原泉
ウチワヤンマ		中央湿地上部
ナゴヤサナエ		中央湿地上部
ウスバキトンボ		
オオシオカラトンボ		
コノシメトンボ		
シオカラトンボ		
ショウジョウトンボ	○	たまり池
チョウトンボ	○	たまり池
マユタテアカネ		
ギンヤンマ		たまり池
クロスジギンヤンマ		たまり池

5 科 14 種のトンボが確認できました。
また、産卵は 3 種で確認できました。

まとめ

トンボ調査では 5 科 14 種が確認できましたが、ヤゴ調査では 4 科 5 種しか確認できませんでした。観察されたトンボとヤゴの種類数の違いが気になります。

これ以降は、湿地に飛んでくるトンボの種類・発見場所を記録してから、再度ヤゴ調査を行って、ヤゴとトンボとの環境のつながりについて考察していこうと考えています。

会員活動支援

なごや東山の森(緑地保全地区)灯火採集

NPO法人 なごや東山の森づくりの会　瀧川 正子

はじめに

山崎川の水源の森（仮）・ハンノキ湿地には 60 年代まではため池がありました。80 年代から樹木の繁茂が目立ち森は暗く、ため池は管理されず湿地化し、湧水も激減しました。夏場には水涸れが常態化しています。今回は 5/19、7/11、7/14、8/25、9/15 の 5 回の蛾類・甲虫類の灯火採集で生物資源調査をしました。

調査結果

1. 調査地：名古屋市千種区平和公園・ハンノキ湿地（通称）
2. 位置情報：N.35.619　E.136.983
3. 調査度数：5 回
4. 調査日：2017 年 5/19,7/11,7/14,8/27.9/15
5. 水銀灯 100W×1
   集虫蛍光灯 20W,18W,15W× 各 1
6. 灯火採集参加者：
   講師／浅野邦史（名古屋昆虫同好会）
   参加者／延べ 30 名

■5 月 19 日　調査結果の概略
種数：73 頭
科数：16　未記載 1 頭　未同定 1 頭
重複種：66 頭　破損廃棄：12 頭

■7 月 11,14 日の調査結果の概略
種数：123 頭
科数：28　未記載 1 頭　未同定 1 頭
重複種：42 頭　破損廃棄：2 頭

■8 月 25 日の調査結果の概略
種数：86 頭
科数：17　未記載 1 頭　未同定 1 頭
重複種：25 頭　破損廃棄：2 頭 廃棄：4 頭

■9 月 15 日の調査結果の概略
種数：128 頭
科数：17　未記載 1 頭　未同定 2 頭
重複種：51 頭　破損廃棄：2 頭 廃棄：6 頭

■普通種であるが調査地の表徴種

クロシオハマキ 南方系の常緑広葉樹林	ムモンハンノメムシガ 食餌植物はハンノキの葉
ニセコシワヒメハマキ 枯葉を採食、枯葉を綴る	オオトモエ開帳 95mm 食草はサルトリイバラ

■蛾類の報告書の 35P から 5P と 28P のみ転載

まとめ

蛾類に関してシャクガ科 65 種、ヤガ科 41 種、ツトガ科 37 種他、併せて 30 科 235 種と多様であった。湿地のハンノキ林に特有のオナガミズアオ等の採集はなかったが今後に期待したい。5 回の調査から蛾類の貴重な地域と思われる。他の昆虫調査や植生調査等と併せて今後の追跡調査につなげ、湿地再生への行動計画作成の基礎データを得ることができました。

会員活動支援

荒池緑地昆虫生息調査・水辺の生きもの調査

荒池ふるさとクラブ　堀井 雄介／櫻井 廣二

はじめに

荒池緑地での昆虫生息調査は、荒池ふるさとクラブ設立の平成 16 年から現在まで毎年開催しています。ここ数年、昆虫に堪能な会員の参加が望めない中、子供たちには好評の為、協議会会員活動支援をお願いし、また協議会主催のなごや生物多様性サマースクール共催で行いました。

今年度調査結果と感想

荒池緑地は、荒池・農業センター・針名神社・秋葉山・大堤池、その周辺の雑木林や農地を含み、都市における良好な自然景観を維持するため、風致地区として保全されています。

ここでは雑木林や竹林などの林地、ため池や小川などの水辺、また里山として利用されている果樹園や田畑、さらにかつては亜炭の採掘が行われていましたが、今ではほとんど人が入らない山など、名古屋市内にありながら多様性に富んだ環境であり、生きものたちにとっては恵まれた生息地と思われます。

哺乳類ではタヌキの親子やイタチ、鳥類では水鳥から猛禽類に至るまで多くの種を、さらに両生類・爬虫類に加え、今回、調査を行う昆虫も、たくさんの種類を観察することができます。

子供達（大人達も?！）が大好きな昆虫であるため、例年、夏休みの最初の週末に実施しています。今年はなごや生物多様性保全活動協議会との共催でサマースクールとして、クラブ外の方にもお越しいただき開催しました。金曜日に有志でベイトトラップを設置し、土曜日にトラップの回収と補虫網等での採取、午後に同定・整理と発表会を行いました。今年も多くの種の昆虫を採取できましたが、人気のあるカブトムシの孵化時期が一週ほど遅れたようで、採取できなかったのが残念そうでした。ですが今まで知らなかった昆虫の特徴などを、講師の先生に教えていただいている時の、子供達の目の輝きがとても印象的でした。

活動結果

調査日時　平成 29 年 7 月 22 日（土）
10:00 ～ 12:00　トラップ回収と採取
13:00 ～ 15:00　同定・整理・発表

調査場所　荒池緑地（雑木林・草地広場・田）

調査方法　果実トラップ、補虫網でスウィーピング

参加人員　参加者 27 名（子供・保護者）
スタッフ 27 名
※サマースクールの参加者・スタッフも含む

講　　師　名古屋昆虫同好会　戸田尚希氏

整理･発表会場　農業センター　講習室

● 調査結果（確認種リスト）

科名	種名	個体数
アシナガグモ科	ジョロウグモ	1
	アシダカグモ	1
イトトンボ科	アジアイトトンボ	2
サナエトンボ科	ウチワヤンマ	1
トンボ科	ショウジョウトンボ	1
	シオカラトンボ	3
	オオシオカラトンボ	2
カマキリ科	コカマキリ	1
	オオカマキリ	2
キリギリス科	ヒガシキリギリス	1
コオロギ科	エンマコオロギ	1
バッタ科	ショウリョウバッタ	3
	ヒナバッタ	1
	トノサマバッタ	1
	ナキイナゴ	1
イナゴ科	ツチイナゴ	1
ヒシバッタ科	ハラヒシバッタ	1
セミ科	アブラゼミ	1
	ニイニイゼミ	2
シジミチョウ科	ヤマトシジミ本土亜種	1
タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン	1
アゲハチョウ科	ナガサキアゲハ	2
	クロアゲハ本土亜種	1
	アゲハ	1
シロチョウ科	モンキチョウ	2
クワガタムシ科	ネブトクワガタ本土亜種	2
	コクワガタ	2
	ノコギリクワガタ	2
コガネムシ科	アオドウガネ	1
	マメコガネ	1
	カナブン	1
コメツキムシ科	オオフタモンウバタマコメツキ	1
テントウムシ科	ナミテントウ	1
ケシキスイ科	ヨツボシケシキスイ	1
ゴミムシダマシ科	ゴミムシダマシ科の一種	1
	ユミアシゴミムシダマシ	1
カミキリムシ科	キマダラミヤマカミキリ	1
23科	37種	50

会員活動支援

夏休み　山崎川生きもの観察会

山崎川グリーンマップ　大矢 美紀

はじめに

名古屋市内を流れる都市河川、山崎川では十数年前まで、大型のコイと岩に上がって日光浴をする耳が赤いカメがどこででも見られていました。川を散歩する人たちは、山崎川は生き物がたくさんいて良い川だと話していました。

この外来の生きものたちは、むしろ山崎川の本来の生態系を破棄しているのだと地域の人たちに伝え、外来種を取り除く作業に取りかかったのが2008 年でした。

山崎川のミシシッピアカミミガメは、活動の成果が上がり、以前に比べ随分数が減ってきました。しかし、完全に取り除くことは不可能に近く、地道に長い時間をかけて数を抑えていく以外方法はないと思います。

平成 28 年、名城大学環境創造学科や名古屋市のなごや生物多様性センターの協力の下で、川の両岸を網で覆い、地曳網で大型コイを捕獲することに成功しました。何百匹もいるコイですから、これを完全に駆除することは難しいですし、何年もの時間がかかります。地道に続けていく以外ありません。

山崎川の生態系を守っていくためには、長い年月がかかります。そのためにも、わたしたちの活動を引き継いでくれる次世代を育てることが必要不可欠です。夏休み生き物観察会開催の一番の目的は、次世代育成です。

活動結果

● 山崎川ふれあい親水公園で生きもの観察会

日時：7 月 29 日 10：00 ～ 12：00
講師：鉄崎幹人氏
参加者：瑞穂区内小学生を中心に 50 名
スタッフ：17 名

▼定置網・カメ罠にかかっていた生きもの ◎多数

クサガメ	4
ウンキュウ	1
オイカワ	◎

スッポン	3
ギンブナ	1

▼ガサガサで捕まえた生きもの ◎多数

カマツカ	1
スミウキゴリ	◎
ヌマエビ	◎
モツゴ	1
アメリカザリガニ	5
カダヤシ	◎

ドジョウ	◎
テナガエビ	8
ミナミメダカ	5
ゴクラクハゼ	2
ミシシッピアカミミガメ♀	2

● 山下橋下流でコイの防除

日時：7 月 29 日 13：30 より
講師：谷口義則氏（名城大学理工学部）
参加者：名城大生、瑞穂区内中高校生 12 名

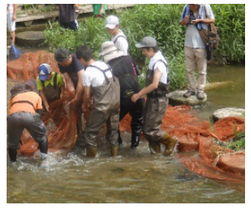
谷口先生の指導の下、名古屋市のなごや生物多様性センター寺本匡寛氏の協力を得て、川の両岸を網で覆い、地曳網で大型コイを捕獲することに成功しました。コイ 31 匹とヘラブナ 2 匹を、川から取り除きました。重量は 58.9KG。

▼その他、網にかかった生きもの ◎多数

オイカワ	54
ボラ	3
ウグイ※	3
アユ	1
メダカ	1
ブルーギル	1

スミウキゴリ	◎
ウキゴリ	1
ゴクラクハゼ	2
ヌマチチブ	1
エビ類	49
ブラックバス※	2

※山崎川ではウグイは初確認、ブラックバスは初捕獲



会員活動支援

昆虫採集＆観察会 in 滝ノ水緑地

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会　鷲見 順子

はじめに

滝ノ水緑地では、水辺部会によって、2014 年から池（滝ノ水北池）の生きもの調査がおこなわれました。この調査結果から、外来種を減らせば、水生昆虫の豊かな本来の池の姿が取り戻せるのではないかと考えられました。

2017 年 11 月 26 日に池干しをおこなうことになり、地元自治会と協力して実行委員会を立ち上げました。

これまでの池の生きもの調査（2014/5/25、2016/5/15、9/18）で見つかったトンボ類（ヤゴ）は、アオイトトンボ、キイトトンボ、アジアイトトンボ、アオモンイトトンボ、クロイトトンボ、モノサシトンボ、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、タイワンウチワヤンマ、シオカラトンボ、コシアキトンボ、マユタテアカネ、マイコアカネの13 種です。緑地では、他にも数種のトンボ（成体）も観察されています。

この調査とあわせて、2015 年 5 月から、池の中に 3 か所の罠を仕掛けて、外来種の捕獲調査もおこないました。その結果、13 か月間で、ニホンイシガメ 3 匹、オオクチバス 9 匹、ブルーギル 45 匹、アメリカザリガニ 119 匹、ミシシッピアカミミガメ 4 匹などを捕獲し、在来種は池に戻しました。

昆虫採集＆観察会

池干しの計画を地域の子どもたちに知らせ、事前に緑地とそこに棲む生きものたちとふれあうことで、池干しの意義を理解してもらいたいと考えて、協議会から活動支援をいただいて、昆虫採集&観察会を企画しました。講師は、名古屋昆虫同好会の間野隆裕氏にお願いしました。

実行委員会としては、これとは別途に、大人向けの勉強会も後日おこないました。

● 観察エリアと参加者について

池周辺は、遊歩道がめぐらされており、岸辺は湿地植物が生育するホットスポットなので、残念ながら、子供たちが池の周りで昆虫採集をすることはできません。そのため、池の周辺は観察のみにして、滝ノ水緑地全体を回って、植生の説明も交えながら、昆虫採集と観察をすることにしました。

当日は夏休み中ながら、学童保育の行事などと重なり、参加者は少なめでしたが、講師の先生と密度濃く接することができました。

図 1．滝ノ水緑地にて

● 観察できた昆虫

アブラゼミ、オオカマキリ、オオシオカラトンボ、カメムシ、キタキチョウ、キマワリ、クマゼミ、クロアゲハ、コガタスズメバチ、コミスジ、セグロアシナガバチ、ツクツクボウシ、ナガサキアゲハ、ナナフシ sp、ハラビロカマキリ、ヤマトシジミ　以上 16 種

それぞれの昆虫たちが、森とどのように関わっているか、講師の先生から、生きものたちのつながりを説明してもらいながら緑地を一周しました。

観察を終えて

トンボは 1 種のみの観察でちょっと寂しかったですが、少ない人数だったので、楽しく緑地で過ごすことができました。

会員活動支援

竹林管理の土壌調査

花水緑の会・大高竹の会　大矢 芳樹

はじめに

２００３年大高竹の会が結成され、暴走していたモウソウチクを数年間にわたり伐採し、現在の活動拠点になっている竹林の景観がつくりだされてきました。

その竹林の竹材でこれからも継続し竹炭造り、各種イベントに活用するための必要本数と桿の太さの検証がなされていませんでしたが、一昨年からその年に成竹した竹を調査してきました。

これから５年サイクルの循環型竹林にして、今よりさらに桿の太い竹を成竹させ、竹林の景観を維持管理するためと、年間２００本の必要本数を賄う為の管理方法を決めたいと思います。

また、２０１６年より２０１７年の方が桿の太さが細くなったのと、管理ゾーンにより桿の太さのバラツキが少し大きくなってきた事と、一昨年の秋に堆肥を施したゾーンと施しをしないゾーンにおいて、土壌がどの様な差があるか確認と、今後の竹の成長にどう影響するか知るために、調査を実施することにしました。

調査結果

ＰＨ・ＥＣ・水分量・土壌の硬さ・光量子束密度を調査した結果として、表1の数値を得られました。水分量については南に面したゾーンほど低い傾向が見られ、ＰＨでは堆肥を施した所と施さなかった所では数値がはっきりと分かれ、施さなかったゾーンでは弱酸性になっている事が明らかになりました（緑色で網掛けした部分が堆肥を施したゾーンです）。

	水分	硬度（mm）	ＰＨ	EC	光量子束密度		相対光量子束密度（%）
					林内	林外	
調査Ａ	0.50	13.00	4.86	0.12	1.00	1180	0.085
調査Ｂ	2.35	9.50	4.52	0.11	1.70	1190	0.143
調査Ｃ	4.40	17.25	5.10	0.04	0.50	1195	0.042
調査Ｄ	3.10	18.50	5.79	0.06	2.00	1217	0.164
調査Ｅ	2.55	13.00	6.13	0.09	1.80	1217	0.148
調査Ｆ	3.00	20.50	6.65	0.09	5.70	1236	0.461

表 1．竹林土壌調査結果表

▲ 調査場所

▲ 調査地点マーキング

▲ 調査風景

まとめ

今回の結果を踏まえて今後も成竹した竹の調査をしていく事と、伐採する竹の指示と、ゾーン毎の伐採本数の管理、親竹にする筍の設定と管理をし、継続して循環型竹林にしていけるように進めていきたいと思います。また、測定器具の入手遅れで、１回しか測定できませんでしたが、来年度も季節変化があるか調査していきたいと思います。

会員活動支援

外堀を知ろう！体験会

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち　安田和代

はじめに

「森のホタル」とも言われているヒメボタルが名古屋城外堀に生息しています。5 月頃になるとたくさんの輝きを見せてくれる外堀ヒメボタルは、卵・幼虫・蛹の時期をこの外堀で過ごしているのです。ヒメボタルが棲んでいる外堀はどんな所なのか、実際に外堀に入って体感して外堀を知ってもらいたいと思い、本企画を考えました。

実施内容

●「外堀を知ろう！体験会」

日時：2017 年 12 月 16 日（土）

場所：本町橋周辺外堀

講師：なごや東山の森づくりの会　瀧川正子氏

参加者：北土木事務所・保育園児～高校生（7 名）
～教員・70 代まで　22 名

内容：自然観察・清掃
「何か発見しよう！」

① 初めに、紙芝居で外堀ヒメボタルについて話をし、本日の目標を知らせる。

② ゴミ袋を持って外堀に入る。ゴミを拾ってもよし、自然観察してもよし、分からないことは講師の先生に教えていただく。

③ ゴミを一か所に集めて、体験会の感想を伝え合う。

○驚く発見がありました。以前、なごや生物多様性保全活動協議会で行われた陸貝調査で、外堀にはたくさんのオオケマイマイがいることが分かりました。しかも、どんなに見ても本町橋より西のみ。謎とされていましたが、この日、本町橋より東で発見！ヒメボタルは陸貝を主に食べるとされていますが、以前、オオケマイマイの中にヒメボタルの幼虫が入っているのを小学生が発見しました。ヒメボタルと陸貝の関係を考える機会となりました。

○外堀には驚くようなゴミがたくさん捨ててあります。この日も北土木事務所の方が拾得物を交番に届けました。植物や生き物だけではなく、人と自然の関係を考えることもできます。

○「多様性」等について勉強してきたことが、この体験でよく分かった、と高校生。講師の先生が、子どもたちを生かした楽しい授業をしてくださいました。

○保育園児～高校生～大人まで、さらに行政の方とも、外堀を知りながらつながることができました。

図．外堀を知ろう！体験会の様子

まとめ

この企画は、外堀の管理をしている北土木事務所の方々に、ヒメボタルの棲む外堀をしっかりと知っていただく機会になりました。また、参加者はこの外堀に愛着を感じ、次回 5 月にヒメボタルの光を見る時には、年間通してこの外堀で生きてきた命だと感じてくれるでしょう。

世代や立場を超えたつながりも生まれました。小学校長も参加してくれましたが、こうした活動が ESD やアクティブラーニングなど学校とつながるきっかけとなってくれるといいと思いました。

会員活動支援

講演会開催

名古屋昆虫同好会　間野 隆裕

はじめに

名古屋昆虫同好会では、毎年総会席上、各地の専門家を招いて講演会を開催しています。
今年は、昨年に引き続き会員活動支援を活用させて頂き、以下の通り実施しました。

講演会実施内容

● 小松　貴氏　講演会

2018 年 1 月 14 日（日）、名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）において、「地味な虫のヒミツをあばく」と題して、小松貴（こまつたかし）氏に講演をして頂きました。

小松氏は、1982 年神奈川生まれ。信州大学大学院総合工学系研究科山岳地域環境科学専攻にて博士課程修了、2014 年より九州大学熱帯農学研究センターにて日本学術振興会特別研究員 PD となり、現在は独立行政法人国立科学博物館にて協力研究員として活動されています。アリと共生する生物を研究する傍ら、国内外にて様々な生物の観察、撮影を行っており、著書に「アリの巣の生きもの図鑑」（東海大学出版部）など多数あります。

氏は、日本にはいま、環境破壊などさまざまな理由で絶滅しそうな虫たちが 800 種以上もおり、各地で保護活動が盛んにおこなわれています。しかし、そうして保護してもらえている虫は、見た目がきれいで体の大きくて目立つ一部のチョウ・トンボやホタルばかり。絶滅しそうな虫全体のうち 7-8 割を占める、ハチ・ハエ・カメムシ・小さな甲虫などに関しては、多くが保護どころか生活史さえろくに調べられないまま放っておかれています。こうした地味な絶滅寸前の虫たちに焦点を絞り、その暮らしぶりを調べてきました。今回の講演では、そんな彼らのうち思い出深いいくつかの種を、撮影した写真と共に紹介します。と言うことで講演をして頂きました。

当日は 130 名の参加者があり、会場（定員 146 名）が一杯となり、プロジェクターの置き場も調整しなくてはならないほどの大盛況でした。

講演では、小松氏の昆虫に対する情熱が随所に感じ取られ、参加した大人はもとより、虫好きの子供達にも、観察のおもしろさや大切さなど、多くの事を学ぶ絶好の機会になりました。

しかも拝見した写真は小さな昆虫にもかかわらず大変精密な綺麗なもので、生態的にも貴重な写真が多くあり感銘を受けました。

因みに公演後の懇親会も会場が一杯となる 47 名も集い、小松氏からそのすばらしい写真（A4 版）を多数頂戴し、大いに盛り上がりました。

会員活動支援

東谷山南西湿地ボーリング調査報告会

愛知守山自然の会　石原 則義

はじめに

● 東谷山における湿地の成因

二つ考えられる。一つは、傾斜地になっている部分に、東海層群（猪高層）の砂礫層が分布し、下位の猪高層の粘土層（あるいは花崗岩との不整合）上面より、湧水がしみだしていることである。

二つ目は、名古屋城築城にあたり、切り出しやすい最低所より花崗岩を採石し、その部分が凹地化して湧水がたまりやすくなったことである。または両方の理由である。

森勇一先生からは、ボーリングをすると湿地の成り立ちがわかるということから、2017 年の春にボーリング調査に挑戦した。

試料採取を経て、ボーリング調査の報告会を、2 月 17 日（土）の午前・午後、東谷山フルーパーク本館 2 階会議室において、地層に造詣の深い、京都教育大学の田中里志先生を始め、講師の方々 10 名より、試料分析の結果を報告並びにコメントをいただいた。参加者は **29 名**。

調査結果

東谷山湿地には、東海丘陵要素植物群と呼ばれる固有種が存在しており、それらの植物を保護するために、この湿地環境がいつから続いているのか、どのように保たれてきたかを知る必要がある。そこで、年代測定は加速器の故障でままならないが、学生の二人が卒論と相まって発表したので、紙数の関係で全部は掲載できないが、昆虫化石、花粉分析から湿地の成り立ちについて考える。

№1 ボーリング試料（237cm）全体から 326 点、№2 ボーリング試料（239cm）から 155 点の昆虫化石が算出した。花粉分析では、№1 試料とハンドオーガー試料（1m）を使用した。49 試料を投入し、そのうち 46 試料から産出した花粉分析の同定を行い、花粉分析図を作成した。№1 の花粉群衆をマツ属の産出率の変化によって下位から花粉帯Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと区分した。ハンドオーガー試料は、最上位花粉帯Ⅳとした。

図．調査報告会

まとめ

花粉帯Ⅰ～Ⅱ（紀元前 14 年から江戸時代前まで）にかけて森林伐採などの人間活動の影響を受けて、広葉樹林がはげ山になってしまったと考えられる。花粉帯Ⅲ（江戸時代以降）ではは げ山になったところに松林が形成されたと考えられる。花粉帯Ⅳ（高度経済成長期以降）では人々の暮らしの変化により人間の植生への関わりがなくなったことでマツ林から広葉樹林へ植生遷移したと考えられる。

低地部においては、遅くとも花粉帯Ⅲの最初期には、湿地が存在していたと考えられる。花粉帯Ⅳになるとホシクサ属を含む現在のような湿地環境になったと考えられる。昆虫分析でもA層（江戸時代以降）が堆積しはじめた頃から現在のような湿地環境になったと推測する。

湧水湿地と一概にいっても、地域により違いがあることを学んだ。

※№2 の試料では、上位から 1.65m が紀元前 14 年程度（中村私信）、№1 は 1.72m に相当すると推定される。

地域活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員以外の活動においても、地域団体がなごやの生物多様性の保全を目的として行っている活動について、調査機材の貸出を行っております。また、必要に応じて、現場指導や生物の同定などの支援も行っています。

平成29年度は、以下の活動について支援を行いました。

平成29年度　活動一覧

実施団体名（敬称略）	活動内容
大高緑地自然観察会・地球ハグ倶楽部	発光生物「ホタルイカ」調査
牧野ヶ池緑地保全協議会	牧野ヶ池緑地の保全
細口池生きもの復活クラブ	細口池の生きもの復活作戦

発光生物「ホタルイカ」調査

大高緑地自然観察会 代表　高松 一史／地球ハグ倶楽部 代表　坂部 里咲

はじめに

大高緑地公園を中心に自然観察会等を活動する「大高緑地自然観察会」と親子森遊びを主催する「地球ハグ倶楽部」との共催で実施しました。

活動内容

昨年より、ヒメボタル、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ウミホタル等の「発光生物」調査及び観察を実施し、本年度は、「ホタルイカの生態」を行いました。

実施時期　2017年4月22日　23:00-2:00
参加者　大人12名　小人5名　計17名
実施場所　富山県富山市四方

● ホタルイカの生態

ホタルイカは、軟体動物類のホタルイカモドキ科に属する深海性のイカです。ホタルイカは回遊性の1年魚で3月～5月に富山湾に産卵のためにやってきます。産卵期の雌は、昼間は水深 200m 位の海底付近で生活し、夜中に浮上し産卵します。

● 調査方法

貸出物のライフジャケット及びウェーダーを着用し、浮上してきたホタルイカをタモで捕獲します。

● 参加者の声

「ホタルイカ、怒って光りながら墨かけてきた」
「ホタルイカの鳴き声初めて聴いた～！」
「ホタルイカにいっぱい手を噛まれた。途中から噛まれない掴み方掴んだ！」

図1．採集時写真

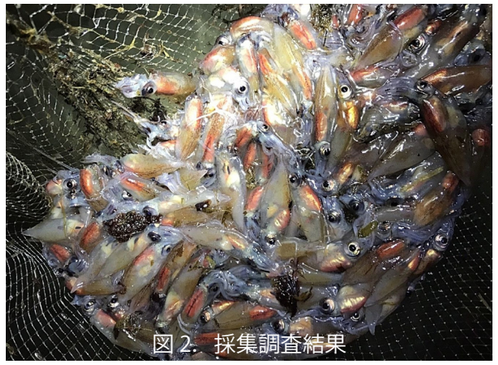


図2．採集調査結果

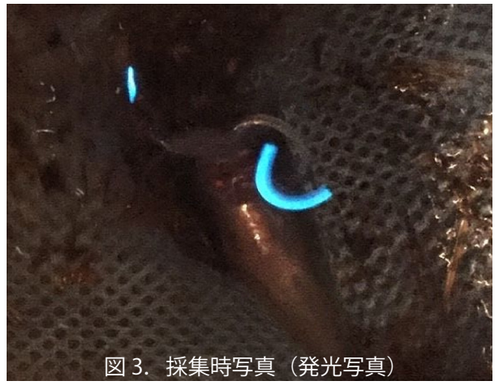


図3．採集時写真（発光写真）

まとめ

夜間の調査活動でもあり、参加者の安全性を確保することが、大きな課題でした。なごや生物多様性保全活動協議会から道具を借用して頂いたことで、無事に活動出来たと思います。

参加者からは、「こんな経験は初めて」、家族の思い出になりました。来年も「ぜひ企画してほしい」との声を頂きました。協議会には借用のお礼を申し上げます。ありがとうございました。

地域活動支援

牧野ヶ池緑地の保全

牧野ヶ池緑地保全協議会　巾 賢治

はじめに

牧野ケ緑地は 1957 年に広域公園となり、市民の憩いの場になっています。

牧野池の歴史は古く1646 年に灌漑用として作られ、県下3番目に大きなため池（13ha）です。池には、絶滅危惧種Ⅱ類のガガブタが広範囲に繁茂し風物詩にもなっています。この貴重な水性植物が園芸スイレンによって脅かされ、放置すると絶滅の憂き目にあいかねません。重点保全として、8 カ所の抜根調査に取り掛かっています。

調査結果

現在まで三ヶ所を終え、いずれも再生が見られないため、本年は最大面積である⑧番のスイレン抜根調査に取りかかる。

1．⑧番の岸辺には準絶滅危惧種のミズユキノシタがあるため、搬出には細心の注意をはらい行う。
2．6 月の抜根した場所にイヌタヌキモが再生しはじめたことを確認する。スイレンの捨て場を散策路の近くに搬出したため悪臭の心配があったが、今回もクリアでき、今後予定される①、②、③の捨て場も心配しなくてもよくなる。
3．作業範囲が広くなるに伴い水深を下げなくては作業が困難になり、県との調整が必用となると共に、牧野池の状況についての認識や理解が得られていないため、保全協議会としても関係づくりに努めていかなければならい。

図 1. ⑧番　7 年前のハス繁茂と現在

図 2. 6 月の作業

図 3. 11 月の作業後

まとめ

園芸スイレンを根絶するには長期の視野と根気、人海戦術は欠かせない要素です。

まだ、範囲は 1/4 程度の進捗で、完全に終えるには大勢の人員と道具類の確保が課題となっています。近くの牧の池中学校生徒会が、牧野ケ池緑地の清掃活動を 18 年以上行っているため、スイレン対策への協力依頼や、8 月に行うイベントの「生き物調べ」参加者に呼びかけなど、さまざまなツールを利用し、人員確保に努める予定です。

今回も名東保健所の男女職員皆様が、平日にもかかわらず 11 人も協力をいただいたことと、なごや生物多様性保全活動協議会様の道具類の協力にお礼を申し上げます。

地域活動支援

細口池の生きもの復活作戦

細口池生きもの復活クラブ 代表　浅井 正明

はじめに

細口池生きもの復活クラブは、ツバメのねぐらの復活と生物多様性を保全するため、ヒメガマとヘドロを除去して水面を再生してきました。4 間の活動で水面 40%、ヨシ 50%、ヒメガマ 10% 程度まで復活させることが出来ました。また、生きもの調査を子どもたちの参加を得て実施し、外来生物の除去を行いました。

活動内容

平成 29 年度調査及び保全作業は、毎月 1 回の定例活動と若干名による常時活動と清掃を行いました。

● 定例活動：毎月第２土曜日　会員数 15 名

活動日	活動内容
4月 8日	ヒメガマ根茎除去9人
5月20日	ヒメガマ根茎除去8人
6月10日	ヒメガマの根茎除去と刈り取り7人
7月 8日	ヒメガマの根茎除去と刈取り6人
8月25日	生物調査カメわなの池内設置46人
8月26日	生物調査・解説及び特定外来種除去
9月16日	雨のため、池と野鳥の観察8人
10月14日	ヒメガマの根茎除去･刈り取り7人
11月11日	ヒメガマの根茎除去･刈り取り10人
12月 9日	ヒメガマ･ヨシの刈り取り8人
1月13日	湧水か所の保全5名
2月11日	湧水か所の保全7人　　計121名

● 常時活動　概ね 120 名

活動日	活動内容
4月1日～2月20日 (若干名でほぼ週1回)	ヒメガマの根茎除去・ヘドロの除去、ヒメガマの刈取り、根茎の片づけ、概ね60名
毎週土曜日2名	池内清掃、排水口清掃60名

● 生物調査結果：8/25・26 に実施

調査は、カメわな、モンドリ、ガサガサによって生き物の捕獲調査をしました。イシガメとクサガメの成体が確認されましたが、一方カダヤシ、ウシガエル、アメリカザリガニが多数確認できました。モツゴ、スジエビなど在来種の個体数は増加しました。特定外来生物は処分しました。

● 湧水か所の保全

池の南端から湧水のしみ出しを発見し、その個所の泥を浚えたところ鉄分を含んだ湧水がこんこんと出て、池に注いでいることが確認されました。

● ６年間で確認された種

分類群	種名
魚類	ドジョウの仲間、フナの仲間、モツゴ、トウヨシノボリ、カダヤシ、コイ
甲殻類	モクズガニ、スジエビ、アメリカザリガニ、ミナミヌマエビ
は虫類	クサガメ、ニホンイシガメ、
両生類	ミシシッピアカミミガメ
鳥類	バン、オオバン、アオサギ、コサギ、カルガモ、オオヨシキリ、カワセミ、ツバメ、コガモ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、カイツブリ、ダイサギ、ヨシゴイ、カワラヒワ、カワウ
昆虫類	ヒメミズカマキリ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、クロイトトンボ、アジアイトトンボ

まとめ

4 年間のヒメガマとヘドロを除去し、ヨシの生育域が著しく増進した結果、池の水環境は改善されました。春からツバメの飛翔はよく見られましたが、ねぐらにはなりませんでした。イシガメ・クサガメが確認できましたが、カダヤシ・ウシガエル・ザリガニ・ミシシッピアカミミガメが依然として多く生息していました。池南端で湧水が確認され、湧水地点まで土砂を掘り保全しました。野鳥はオオバンやカイツブリがコガモ・カルガモなどと毎日姿を見せています。

助成金事業

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の後継者育成を目的とする活動や新たに取り組まれる保全活動を支援することで、次世代の担い手づくりやこれからの自然保全活動の創出を応援しています。

開始から3年目にあたる平成29年度は、8件の採択がありました。

平成29年度　活動一覧

実施団体名　（敬称略）	活動内容
名古屋昆虫同好会	自然環境保全活動の後継者育成を目的とする活動
中志段味の自然を次世代に伝える会	才井戸流の自然保全
NPO法人 なごや東山森づくりの会	なごや東山の森　水源の森（仮）の保全再生活動
愛知守山自然の会	守山区内にあるマメナシ・シデコブシ自生地の保全・保護活動
ヒメボタルサミット in 愛知実行委員会	名古屋市及び愛知県内のヒメボタル生息分布状況の取りまとめ
名古屋大谷高等学校化学部	名古屋大谷高等学校化学部
東邦高等学校科学研究部	矢田川支流におけるブルーギル捕獲と透明標本の制作
名古屋市立緑高等学校理科部	オリジナル生物図鑑（大高緑地編）の作成にチャレンジ！

相生山緑地自然観察会

▲ヒメボタル（オス）

団体の目的・主な活動内容

■目的
　自然観察を通して、自然に親しみ、自然のしくみを学び、自然保護・保全の大切さを伝え、広めることを目的とする。

■活動
・観察会
・調査・保全・保護活動
・ガイドブック・冊子などの企画・執筆
・なごや生物多様性センター、天白区役所他パートナーシップ事業
・他団体との情報交換など

平成 29 年度の活動について

■観察会：四季折々の植物・昆虫・鳥などをテーマに実施

3/26（日）バタフライガーデンの植栽管理	
5/19（金）そっと観察しよう～ヒメボタル	連携：天白もり・フォーラム
5/21（日）ヒメボタルを観察しよう	主催：天白生涯学習センター
5/28（日）自然発見ゲームとバタフライガーデンの手入れ	主催：名古屋市環境活動推進課
7/23（日）葉っぱの力！標本を作ろう ＆ 葉っぱを味わう	主催：なごや生物多様性保全活動協議会
10/ 8（日）旅をするチョウ“アサギマダラのマーキングをしよう”	共催：東山植物園
10/14（土）同　上	同上　＝天候不良のため中止＝
10/22（日）天白区民まつり	主催：天白区役所　＝選挙のため中止＝
予）3/20 愛知県内のヒメボタル生息地の報告書作成	

※ヒメボタルサミット in 愛知実行委員会、コアメンバーとして作成

団体の情報

主な活動場所　相生山緑地オアシスの森（天白区）

相生山緑地自然観察会
TEL/FAX：(052) 822-7460　　E-mail：kimiko.k@chorus.ocn.ne.jp
ブログ：http://ngyaioi.blogspot.jp/

■例会の予定：定例観察その他　ヒメボタル、アサギマダラなどをテーマに観察会実施

「あいちの海」グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

　目の前にある三河湾と伊勢湾という素晴らしい海の魅力を町の人や地元の人に知ってもらうこと。

平成 29 年度の活動について

①南知多町長谷崎のアマモ場生物調査
　4 月より、春夏秋冬と継続的に、きしわだ自然資料館の研究員、柏尾翔氏の指導のもとで行いました。新種のナマコとミノウミウシも見つかりました。
②ヨットで佐久島へ！
　5 月 14 日【日】河和港からヨットで佐久島へ行きました。例年は、スナメリリが近くまで寄ってくるのですが、今回は前日まで大雨が続き、山や里から流れ出た富栄養のため三河湾一帯が赤潮で、生き物がほとんど見られませんでした。参加者達が、三河湾をきれいにしたいね、と真剣に話し合っていた様子が心に残りました。
③クサフグの集団産卵観察会 6 月 7 日【水】午後 3：00 ～ 5：00
④南知多大井で地元産のチリメンモンスターをさがせ！ワークショップ開催 8 月 6 日【日】なごや生物多様性保全活動協議会、サマースクールとして開催。その他、地元の子どもたち、名古屋市立大学人文社会学部学生が参加。講師は大阪自然環境保全協会。午後は、南知多町大井町づくり協議会の案内で大井の磯の散策。チリメンモンスターワークショップは、瑞穂区汐路小学校トワイライト、なごや生物多様性センターまつりでも開催しました。
⑤ウミホタル観察会　8 月 19 日【土】夜
⑥南知多町長谷崎・聖崎の生物調査は、春・夏・秋・冬と継続的に調査を続けています。協力は、愛知みずほ大学川瀬基弘先生（貝類）、きしわだ自然資料館学芸員柏尾翔氏（ウミウシなど）。今年度も新たにミノウミウシ、ナマコの新種が見つかりました。
⑦南知多町大井、片名地区の昔の様子の聞き取り調査。南知多町師崎中学校生徒、名古屋市立大学学生によって戦後間もない頃、三河湾がきれいだった頃の聞き取り調査を行いました。平成 29 年度末に、まとめたものが冊子となりました。

団体の情報

主な活動場所　三河湾　南知多町　名古屋市

「あいちの海」グリーンマップ
TEL/FAX：(052) 841-6048　E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp　ウェブサイト：http://www1.m1.mediacat.ne.jp/aichisea/

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

愛知守山自然の会

▲桑名市多度町八壺谷マメナシ自生地

団体の目的・主な活動内容

平成 16 年から守山区の小幡緑地本園を拠り所として、より良い自然環境の保全と保護を目的に　①一般参加者向けの自然観察会の実施　②せせらぎ湿地の保全・保護　③マメナシなどの希少生物の保全　④研修や各種イベントの参加など、楽しみながら、活動をしているボランティア団体です。

全国トンボ市民サミット、県内の湿地サミット、三重県桑名市多度町八壺谷でのマメナシ保全に参加しています。

日常的には、守山自然ふれあいスクール実行委員会、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会、なごや生物多様性保全活動協議会の行事に積極的に参加しています。

平成 29 年度の活動について

４月：小幡緑地・現地フィールド訪問（森パー連）
５月：滋賀県・山門水源の森見学（泥炭湿原）
５月：湿地サミット in 刈谷に参加
５月：東谷山の南西湿地のボーリング調査
６月：守山生涯学習センターの講座サポート
７月：四日市御池沼沢植物群落見学（沼沢湿原）
９月：桑名市多度町八壺谷マメナシ保全応援
１０月：なごや生物多様性センターまつりに出展
１１月：小幡緑地秋まつり・おばた自然ウォークに協力

団体の情報

主な活動場所　小幡緑地本園内　せせらぎ湿地・マメナシ自生地

愛知守山自然の会
TEL/FAX：(052) 711-3087　　E-mail：norimameobata@yahoo.co.jp
■例会の予定
【自然観察会】毎月第 2 土曜日 10：00 ～ 11：45（小幡緑地本園トンボの時計台前　9：45 集合）
【保全活動日】毎月第 2 水曜日・第 4 日曜日 10：00 ～ 12：00（小幡緑地本園内（せせらぎ湿地・マメナシ自生地））

雨池ホタルの会

▲夏だ！元気にあそぼう

団体の目的・主な活動内容

名古屋市守山区御膳洞（ごぜんぼら）にある名古屋市立大森北小学校と道路を挟んだ隣に、ため池と公園が一緒になった名古屋市内で 1000 番目に整備された「雨池（あまいけ）公園」があります。平成 10 年 5 月末、会員の 1 人が雨池の外周道路を犬と散歩中に偶然ホタルを見つけました。その後、多くの人が輝くように光る自然の神秘に心を動かされ、雨池周辺のホタル生息地の保全に立ち上がりました。

「守山自然ふれあいスクール」検討部会にスタッフ参加して、多くの人に雨池公園の自然の素晴らしさを理解してもらい、一緒に守ってもらおうと思っています。その他、桜並木やマメナシの保全活動、公園周辺のゴミ拾い、池の浮遊物の撤去、草刈り、花壇作りなど、豊かな自然環境が育まれるように活動しています。

平成 29 年度の活動について

・毎月第 1 金曜日午後 8 時から 1 時間ほど、大森交番前に集まって雨池公園と地域の防犯パトロールを行いました。
・毎月第 2 及び第 4 土曜日は雨池公園周辺の清掃活動、「春の小川」の雑草除去と花壇の手入れを行いました。
・ 5 月 20 日（土）のヒメボタル観察会には例年より多い 110 名の参加者がありました。大森北小学校の校庭に集まってヒメボタルに関するスライドを使った話を聞き、ホタルクイズにも挑戦しました。その後、雨池周辺での 2 か所でヒメボタルの観察を行いました。多くの飛翔が観察出来、子供たちの喜ぶ顔が印象的でした。
・ 8 月 19 日（土）に総勢 80 名の参加者で毎夏休み恒例の「夏だ！元気にあそぼう」(魚釣り、虫取り、スイカ割りなど) を行い、地域の子供たちと交流を深めることが出来ました。
・ 3 月 3 日（土）には学区子ども会連合会や大森北小学校 PTA と共催で「もちつき大会」を行いました。

団体の情報

主な活動場所　名古屋市立大森北小学校の学校隣接公園である雨池公園周辺

雨池ホタルの会
TEL：(052) 792-0022　　E-mail：rei-hirose@gaea.ocn.ne.jp
■例会の予定：毎月第２及び第４土曜日、午前 10 時から

荒池ふるさとクラブ

▲田植え

団体の目的・主な活動内容

荒池ふるさとクラブは、平成 16 年から荒池緑地で保全活動を行っています。

活動目的は、名古屋市と地域との協働で策定された「荒池なごやかファーム構想」の趣旨に賛同し、荒池緑地を次世代に引き継ぎ、生物多様性を保全し、自然との共生を目指します。

下記のような活動を行っています。
・自然観察（植物・昆虫・野鳥・水辺の生き物など）
・竹林、雑木林の整備
・水田、畑の耕作、果樹園管理
・間伐竹の炭焼き
・竹を利用した、竹工作、各種イベントへの参加
・近隣小学校の総合学習の協力など

平成２９年度の活動について

緑地の整備（竹林・雑木林）と水田での稲作を中心に里山の風景の復元を目指した活動を行いました。

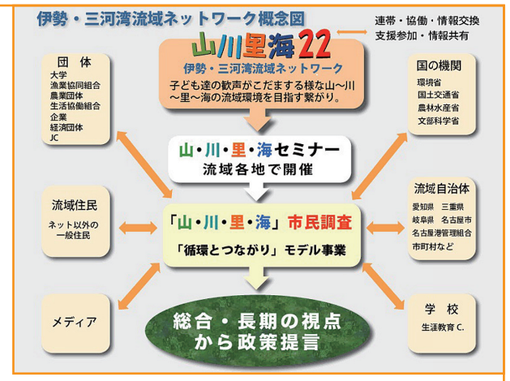
主な月別活動は、4 月に植物観察会、5 月に田植え、5 月・12 月・1 月に、天白区土木事務所と農業センターとの共催で、筍・果樹の収穫体験とミニ門松作りを、一般公募した市民と協働で実施。7 月、8 月にはなごや生物多様性保全協議会の協力を得て、昆虫生息調査と水辺の生き物調査。7 月には天白消防署の協力による安全講習会の開催。水田関係では、8 月に案山子づくり、10 月に天白区役所の天白・自然とふれあい隊で稲刈りを、台風の合間に脱穀、12 月の収穫祭で餅つき大会を開催しました。10 月には 5 月に植え付けしたサツマイモの芋ほり、11 月には二つ池エリアの森づくりとして植樹整備。11 月に農業センターまつりのイベントに竹細工で参加。年間を通じ竹林と雑木林の整備を行っています。

団体の情報

主な活動場所　荒池緑地

荒池ふるさとクラブ
TEL：(052) 801-6993　　E-mail：sanupi2@khf.biglobe.ne.jp
ウェブサイト：http://www.geocities.jp/araikefurusato/ 《[荒池ふるさとクラブ] で検索》
■例会の予定：第 2 土曜日・第 3 日曜日・第 4 土曜日
活動時間：10:00 ～ 15:00 ／集合場所：農業センター指導館ロビー

伊勢・三河湾流域ネットワーク



団体の目的・主な活動内容

当会が設立当時に訴えたことは、「伊勢・三河湾の流域」という生態的まとまり(Bioregion)の価値が認識されず、省庁割、地域割の思考と施策でバラバラに管理され、痛めつけられてきたことを指摘できるのは市民団体ではないか。それに気づいた私たちが率先してささやかながらアクションを起こそうという呼びかけでした。伊勢・三河湾流域の「保全」と「再生」につながる提案とその活動推進を図り、豊かな海とその流域の「自然と暮らし」を市民の手に取り戻すことを目的としています。その際「流域」とは内湾とその集水域の全体であり、ひとまとまりの生態系ととらえ、この生態系の価値を高めることをベースに置いた統合政策を模索します。

平成 29 年度の活動について

○生物多様性の保全や向上を地域づくりとのかかわりの中で理解する、というねらいでなごや環境大学から支援を受け 4 つの講座を行った。現在は生物多様性の価値の認識が広がり、それを基本においた地域づくりや政策が徐々に広がる試行錯誤の過程にある。本講座では、干潟の保全、自然エネルギーの普及、森林の健全化と獣害対策を事例に、本講座のテーマに関わってどのような成功事例があり、またまだどのような困難を抱えているのかを具体的に考えようと試みた。第 1 回講座、講師：高山進「サンフランシスコ湾と英虞湾（志摩市）の干潟再生と地域づくり」、第 2 回講座、講師：松原武久「いま振り返る藤前干潟保全の歴史」、第 3 回講座、講師：市野和夫「持続可能な地域を創る～自然エネルギー利用の作法について」、第 4 回講座、講師：和田一雄「ジビエを食べれば〈害獣〉は減るのか」。
○2010 年生物多様性条約 COP10 で採択された愛知目標の達成期間が半分を過ぎた 2016 年から「伊勢湾流域圏再生シンポジウム」を年 1 回行っているが、今年は 3 回目。2 月 10 日、豊橋にて開催され約 70 名の参加者があった。講師は基調講演：アキノ隊員（宮城秋乃）「生物多様性と開発～生き物の視点から」、地域からの報告：市野和夫「豊川水系の開発と環境」、田中美奈子「表浜まるごと博物館の取り組みと地域」、加藤正敏「三河湾の干潟・海岸の保全活動」、桜ヶ丘高校生物部調査報告。主催：伊勢・三河湾流域ネットワーク／国連生物多様性の 10 年（UNDB）市民ネットワーク／中部の環境を考える会／ 四日市ウミガメ保存会／よみがえれ長良川実行委員会。

団体の情報

主な活動場所　伊勢・三河湾流域圏

伊勢・三河湾流域ネットワーク
E-mail：office@isemikawa.net　　ウェブサイト：http://www.isemikawa.net/
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

大高緑地湿地の会

団体の目的・主な活動内容

大高緑地湿地の会は、湿地復元活動を行う前は、毎月 1 回大高緑地を半日かけて、鳥や植物等の観察会を行っていました。その活動の中で、花木園が猛暑・少雨の夏でも水がコンコンと湧き出ていた事と、水がしみ出しているところに東海地方固有の植物、トウカイコモウセンゴケやシラタマホシクサが生えていた事で、この水を利用して消滅しつつある湿地を復元して、そこに生息する植物や昆虫を増やせないかと考えたのが活動のきっかけです。

活動は 2000 年頃からで、まず初めに大高緑地を管理している愛知県に湿地復元活動の趣旨説明や許可を得る話し合いを行いました。2001 年 9 月に県から許可が下り、2002 年から活動に入りました。

平成 29 年度の活動について

現在の活動内容（右表）は、毎月第二日曜日 9 時から 11 時 30 分で、湿地の植物に十分な日光が当たるようにするための草刈り・落ち葉掻きがメインです。また、湿地性の植物は他の植物と違って栄養状態が良いと育たないため、刈った草などは全て別の置き場に運んでいます。その他、名古屋市レッドリスト 2015 で絶滅危惧Ⅱ類のアズマヒキガエルの卵からオタマジャクシの保護と、外来種のアメリカザリガニ・ウシガエルの駆除及びトンボのヤゴ調査と保護を行っています。

【主な活動内容】

1 月	たまり池の泥上げ
2 月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
3 月	湿地上部・誘導路の草刈り
4 月	冬鳥の餌場の草刈り
5 月	シラタマホシクサ自生地の草刈り
6 月	中央湿地の草刈り
7 月	たまり池・導水路周囲の草刈り
8 月	池のアシ刈り
9 月	里山植物群落の草刈り
10 月	コモウセンゴケの丘の草刈り
11 月	シラタマホシクサ自生地の草刈りと種まき
12 月	中央池の泥上げ

団体の情報　主な活動場所　大高緑地内花木園

大高緑地湿地の会（代表：大主順一）
TEL：(052) 413-4435　E-mail：yoka1115@violet.plala.or.jp
■例会の予定：無し

尾張サンショウウオ研究会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市内のカスミサンショウウオの水辺環境の整備と保全。この地方のカスミサンショウウオの保全について調査と協力体制をつくる。また情報の共有をする。カスミサンショウウオ以外にも、ニホンアカガエルやアズマヒキガエルの保全にも取り組んでいる。

平成 29 年度の活動について

産卵期を過ぎたあたりに、一斉調査を猪高緑地で行なった。その他の地域は各地で行なっている方々と情報共有し、名古屋市内のカスミサンショウウオの生息状況の把握に努めた。その他、危機的な状況にあるアズマヒキガエルの産卵状況も把握し、遺伝的多様性の把握も視野に入れながら調査を行なった。

活動人数約9人

団体の情報　主な活動場所　名古屋市内全域

尾張サンショウウオ研究会
TEL/FAX：(052) 781-2595（瀧川正子）
E-mail：fwie6142@mb.infoweb.ne.jp（藤谷武史）
takikawa-m@mtg.biglobe.ne.jp（瀧川正子）
■例会の予定：不定期

かんでらmonzen亭「笠寺ミツバチプロジェクト」

団体の目的・主な活動内容

笠寺まちづくり団体「かんでら monzen 亭」の活動の一つ。笠寺観音商店街屋上にて西洋ミツバチの飼育を行い、商店街活性化の他、ミツバチの育つ安全な環境づくりをテーマに、無農薬の花や野菜づくりの事業も推進する取り組み。平成 25 年より正式にプロジェクトを開始、ミツバチの飼育応援団と花づくり応援団を構成し、ミツバチを通じた環境教育講座を執り行い地域活性化事業を継続中。

平成 29 年度の活動について

季節に準じたミツバチ育ての内検作業とともに、採蜜や蜜ろう採取など商店街活性化の地域資源として活用の計画に基づき、まちで採れたハチミツのほかにも、みつばち食堂の無農薬畑で育てたらっきょうを、はちみつ漬けにした商品も作成、28 年春から販売開始。環境づくりにおいては、ミツバチの環境における役割や共存などをテーマにワークショップを、地域の老人会や子供会など出張ミニ講座を開催。また、図書館主催の蜜ろうキャンドルとまちの木の実リースづくり講座や、笠寺観音手作りマルシェかんのんひろばでは、ミツバチ寄せ植え講座など地域の人々との交流を深めた。
28 年度から開催の、みつばち手仕事部では、毎月 3 回各会場にて、花苗づくりや収穫種の仕分け梱包作業を定期開催継続中。

団体の情報　主な活動場所　笠寺観音商店街界隈を中心とした地域

かんでら monzen 亭「笠寺ミツバチプロジェクト」
TEL：(052) 822-0885　FAX：(052) 822-5466　E-mail：kasadera@minamix.net
ウェブサイト：http://machiwiki.sakura.ne.jp/
■例会の予定：かんでら monzen 亭-毎月第 2 土曜日 9 時～ 11 時／ミツバチプロジェクト養蜂部-毎週 1 回午前（季節に準じて回数や集合時間が変わります）／花手仕事部 - 第二月曜午前・第三火曜午前・第三木曜午後

雑木林研究会

団体の目的・主な活動内容

◆目的
人間と自然のよりよい関係が模索されている中、雑木林（里山林）を一つのモデルとして取り上げ、フィールドをめぐりながらその役割を解明し、今日的価値を探求することによって、両者の新たな共生関係を見出す。そして、かつての役割を失い、放置されつつある雑木林の新たな活用法を探る。

◆主な活動内容
・オープンセミナー　・研究会　・フィールドワーク
・研修ツアー　・協働参画活動など

◆これまでの主な活動テーマ
・子どもと雑木林（雑木林の教育力・木育）
・アートと雑木林（雑木林の創造力・グリーンウッドワーク）　・公園空間としての雑木林
・ヒーリング空間としての雑木林（雑木林の治癒力）　・住民参加・協働の場としての雑木林
・里山保全活動と市民講座　・里山型公園緑地のマネージメント　・里山林と木質バイオマスエネルギー
・里山林の水源涵養機能と雨水利用　・里山林と木工芸・民芸　・雑木林と竹林の管理・利用　など

▲オープンセミナー
「森と暮らしを結び、地域資源を活かす木工芸・木育」
2017/3/25 拳母ルーテル幼稚園ホール

平成 29 年度の活動について

●オープンセミナー　「森と暮らしを結び、地域資源を活かす木工芸・木育」2017/3/25
●研修ツアー　「川喜田半泥子の民芸に触れる津ツアー」2017/6/24
●協働参画活動　「アチェメックの森ワークショップ」あいち小児保健医療総合センター内樹林地
2017/04/23・07/23・10/22・12/23

団体の情報　主な活動場所　特定の活動場所は持たない

雑木林研究会
TEL/FAX：(052) 262-3181　E-mail：k-mayumi@aurora.ocn.ne.jp
■例会の予定：毎月第 1 月曜日　午後 7 時より

地球ハグ倶楽部

団体の目的・主な活動内容

【目的】
全ての生命をはぐくむ自然の中で、親子で遊ぶ。
「ハグ＋コミュニケーション＝ハグニケーション」という、ハグするようなあたたかなコミュニケーションを伝え広げる。
自然体験を通して、まずは一番大切な自分自身、家族、お友達、自然とつながり元気になる。持続可能な社会のために、自分と家族とみんなと自然を大切にできる子供たちを育む。身近なつながりから世界を良くしていくことを目的としています。
【活動の３本柱】
・自然の恵みをとって食べる“美味しい”体験
・自然の素材で作って遊ぶ“楽しい”体験
・自然の神秘を五感で感じる“美しい”体験
【育みたい３つの力】
■自分を信じる力　■大切な人を愛する力　■自分と地球をハグできる力

平成 29 年度の活動について

４月／糸魚川で光る石を探そう　摩訶不思議ホタルイカ
４月～３月／なごや環境大学　前・後期
９月／愛知県環境学習ｺｰﾃﾞｨﾃﾞｰﾀｰ事業
９月／環境デーなごや
１０月～１２月／名古屋市緑生涯学習センター講座

団体の情報　主な活動場所　愛知県中心

地球ハグ倶楽部
連絡はメールにてお願い致します。
E-mail：hugtheearth.club@gmail.com
ウェブサイト：https://healingsolanet.wixsite.com/hugtheearth
■例会の予定：不定期（ホームページを参照）

中部蜘蛛懇談会

団体の目的・主な活動内容

○目的：クモ類の採集、観察、調査、研究など
○創設：1969年
○会員数：140名
○会誌「蜘蛛」年 1回発行
○通信誌「まどい」年 3回発行
○総会・研究発表会・懇親会：毎年 2月 11日（建国記念日）
○観察会（年 4回以上）合宿（年 1回）

平成 29 年度の活動について

（事業年度：2月～翌年 3月）
○主な活動
・総会・研究発表会・懇親会（2月 11日ウィルあいち）
・観察会（4月～10月　全 4回　愛知県内）
・夏休み観察会（8月 20日　名古屋市八事山興正寺）
・合宿（7月 29・30日　石川県白山市）
　※三重クモ談話会と合同で実施
・なごや生物多様性センターまつり
　ブース展示（10月 28日）

▲夏休み観察会（8月 20日名古屋市八事山興正寺）

▲木肌に扉付きの巣を作るキノボリトタテグモ

団体の情報　主な活動場所　特定の活動場所は持たない

中部蜘蛛懇談会
E-mail：mail@ckumo.sakura.ne.jp
ウェブサイト：http://ckumo.sakura.ne.jp/ 《［中部蜘蛛懇談会］で検索》
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）
○入会：子どもから研究者までどなたでも歓迎
○観察会の参加：会員以外でも参加自由・無料（開催日はウェブサイトに掲載）

中志段味の自然を次世代に伝える会

団体の目的・主な活動内容

才井戸流流域は将来『才井戸流湧水自然公園』（仮称）として今の自然をそのまま生かしながら生き物たちに触れられる公園になります。田んぼ跡の湧水ポイントから出る水と全域から染み出す水がこの流域の生き物たちを支えています。澄み切った川には「川モズク」が、河岸段丘の境目には「沢蟹」が生息しています。これらの自然環境保全とそこに生きる生物たちの繁殖を助けてやれるよう、湧き出る水と吹き上がる砂・河岸段丘の境目から染み出る水を大切に生かし、保全を実証しながら次世代へ永続的に継承するのが私たち「伝える会」の活動です。

平成 29 年度の活動について

29 年度はヘイケボタルの域内繁殖・域外定着の試みが一番長期にわたる活動でした。才井戸流での成虫の捕獲・コミセンでの観察と繁殖・幼虫の東山植物園への放流と定着・観察活動は、まるまる 1 年を要しました。又この 1 年間で川に流れ込む枝水路を 7 本と水溜め池を 2 か所造りました。この水路とため池に減少するヘイケボタルが定着してくれる事が理想です。ヒメボタルの保全には竹藪の条件整備から掛かっています。まずカビ臭い藪の土に光と風を入れ、陸貝の繁殖する藪に変える事に手を付けています。これからの夏の生き物は川を上下するトンボたち・湿地にはトノサマガエル・林と川にはカモ・アオサギ・オオタカ・水中にはミクリ・カワモズク・セリなどをいっぱい発見できます。この一年間でこれらの生き物たちの繁殖条件を一歩前へ改善して来ました。

団体の情報　主な活動場所　才井戸流全流域

中志段味の自然を次世代に伝える会
TEL：080-6968-2327（深田）　FAX：052-736-2327
E-mail：f-jin@yc5.so-net.ne.jp
■例会の予定：定例打合せ会／毎月第 3 土曜日 17：00 ～ 19：00（通年）
　　定例作業日／毎月第 1 土曜日 10：00 ～ 11：30（春）

なごや外来種を考える会

団体の目的・主な活動内容

2010年から名古屋市と周辺の地域で活動しています。
「名古屋地域の健全な生態系を守る」ことが目的です。
活動内容は「外来種の調査・駆除・啓発・情報発信」です。
他との協働も積極的に行います。

平成 29 年度の活動について

5月～6月　協議会「オオキンケイギク部会の山崎川駆除活動」に携わりました。延べ 48 人でゴミ袋 28 袋分のオオキンケイギクを駆除しましたが、活動日に雨天などあり、駆除数は少なめでした。
また 6 月は小牧市公民館で外来種勉強会を開催。当会の宇野顧問が身近な外来生物を解説、「外来種に対して私達はどうすれば良いのか」についても聞きました。具体的には「身近な動植物に興味を持ち外来種かどうかを意識する」などです。
7 月にアメリカザリガニ駆除実験を行いました。魚キラー罠にカメが入っても窒息させぬよう、浮かせる工夫をしたが、アメリカザリガニが入らなかったので改良の余地ありです。また7月15日には、名東生涯学習センターで「外来種を食べて減らす会」を開催し、アメリカザリガニの他、アカミミガメカレーやヒメジョオンの天ぷらなどを 18 人の参加者に食べてもらいました。駆除すべき外来生物にも命があるのだから、大切に食べてあげることには意義を感じています。
7 ～ 10 月に猪高緑地内の池に大繁殖しているオオバナイトタヌキモの堆肥化実験を行いました。立命館大の久保幹教授の指導で乾燥・粉砕すれば良質な肥料になることが成分分析から確認できました。
1 月は「トウネズミモチの駆除実験」を行いました。一般的に駆除しにくい外来樹木と言われていますが、切り倒した切口に食塩を盛るだけで枯れる「塩盛り法」や、細い枝やひこばえの切り口に、ガムテープで筒の様に巻き塩を詰める「テープ筒塩」などの駆除方法の検証中です。前者は 85%、後者は 40% まで枯死実績を出しています。

団体の情報　主な活動場所　その都度検討

なごや外来種を考える会
TEL：090-8867-9725　FAX：（0561）62-5510　E-mail：nonaka@kato-ken.co.jp
ウェブサイト：http://nagorai.org/　活動ブログ：http://blog.goo.ne.jp/nagorai
■例会の予定：不定期

「なごや環境大学」実行委員会

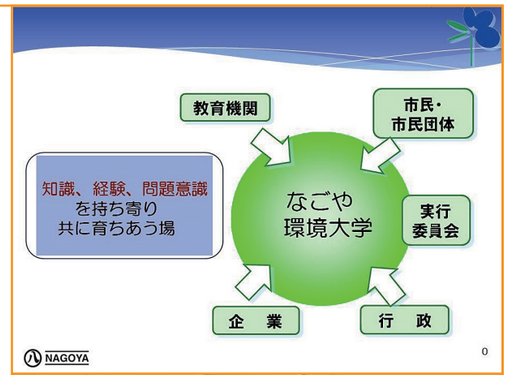
団体の目的・主な活動内容

なごや環境大学は、市民・市民団体、企業、教育機関、行政が協働でつくる、環境活動のネットワークです。「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり」「人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ（共育）」ことを目指しています。

平成 29 年度の活動について

次の 10 年に向けて新たな一歩を踏み出していくため第 4 期ビジョンを策定し、新たな目標にユース（若者）を対象とした事業の充実を図っていくこととしています。具体的には、ユースが主体となるチームを発足させ、大学生との事業連携などを行いました。今後も、これまで以上にネットワークが拡がるよう、分野・主体・世代を超えた交流の場や、それぞれの主体が持つ知識や経験をつなぎ合わせる場などを創り出し、人づくり・人の輪づくりをすすめていきます。

＜平成 29 年度の主な主催事業＞
- 拡大講座企画者交流会
- 環境デーなごや 2017 WATSUKA MONO Village（ワッカモノビレッジ）
- ウィンターコンサート 2017
- エコプロ 2017 出展（3 日間）
- みんなで防災・減災を考え行動しよう!!(2 回)



▲エコプロ 2017 出展の様子

団体の情報　主な活動場所　まちじゅうがキャンパス

「なごや環境大学」実行委員会
TEL/FAX：(052) 223-1223　E-mail：jimu@n-kd.jp
ウェブサイト：http://www.n-kd.jp

名古屋昆虫同好会

団体の目的・主な活動内容

この地球には様々な生物が暮らしています。その中で種数の半分以上を占める昆虫は、その生活様式をそれぞれの棲息場所の環境に適応させて、多くの種に進化を遂げてきました。様々な昆虫がいることを知ること、それらの昆虫が多様な生活をしていることを知ることなどは、私たちが自然を理解することの一つの入り口になります。そのような昆虫に興味を持った人々が集まった会が名古屋昆虫同好会です。

戦後間もない 1949 年に創立され、小学生から社会人、リタイア組みなど、地元名古屋を中心に、全国の約 230 名の虫が好きな人が入会しており、東海地方を中心とした全国の虫情報（データ・生態等）が掲載される会誌「佳香蝶」と、会員情報やよもやま虫談義などを掲載する連絡誌「NAPI NEWS」を、それぞれ年 4 回発行しています。

平成 29 年度の活動について

- 「佳香蝶」「NAPI NEWS」を、年 4 回 3 ヶ月ごとに発行。
- 1 月第 2 日曜日 年次総会の開催
- 1 月と 10 月を除く毎月第二土曜日（原則）月例会実施
- 10 月第 2 日曜日 虫供養（千種区桃厳寺）実施
- 4 月ギフチョウ観察会 in 岐阜県中津川市
- 7 月採集会 in 中部地方の適地
- 子供採集調査会 in なごや圏周辺

▲シンポジウム

▲夏の採集会

団体の情報

名古屋昆虫同好会（会長：間野隆裕）
TEL：090-9924-3518　FAX：(052) 442-1503　E-mail：manotaka@muj.biglobe.ne.jp
ウェブサイト：http://nagoyakondo.jp/
■例会の予定：毎月の例会と総会は名古屋市千種区吹上の中小企業振興会館（通称吹上ホールのある会館）4 階で、情報交換や名前調べ会などの例会を実施しています。

名古屋自然観察会

団体の目的・主な活動内容

名古屋自然観察会（正式名は、愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）は、主に名古屋市内在住または在勤している自然観察指導員（(財) 日本自然保護協会による認定資格者）によって 1982 年に結成されました。現在の会員数は約 100 名です。主な活動場所は名古屋市内です。本会は、発足以来、身近な自然に親しみ、自然のしくみを理解し、自然を守るための自然観察会やそれに伴う環境保全活動などを実施しております。近年では、これらの活動と並行しながら、名古屋市環境局などと協力しながら、環境教育等の様々な活動を行っています。

▲ふるさと親子自然観察会（茶屋ヶ坂公園）

平成 29 年度の活動について

① 市内 10 箇所の緑地や公園などで、その自然の特色を生かした自然観察会やネイチュア・フィーリングなどの特色ある定例の自然観察会を実施しました。
② 子供の自然体験と健全な発育を促すための“なごや自然教室”を 3 回実施しました。
③ 名古屋市環境局環境学習センターと協働したふるさと親子自然観察会を 5 月に、サマースクールを 8 月に実施しました。
④ 名古屋市環境局の環境デーなごや実行委員会が主催する身近な自然体験会(6 月)を実施し、環境デー中央行事(9 月)にブース出展しました。
⑤ 名古屋市内の幼稚園や保育園、小学校などへ環境サポーターを派遣し、名古屋市環境局のエコキッズ事業を実施しました。
⑥ 会員のスキルアップを目的とした研修会を 3 回実施しました。
⑦ 愛知県自然観察指導員連絡協議会が主催する様々な事業に参加・協力しました。
⑧ ホームページなどを通じて情報発信しました。

団体の情報　主な活動場所　市内の緑地や公園

名古屋自然観察会
TEL：(052) 782-2663　FAX：(052) 781-8127　E-mail：takilin@sf.starcat.ne.jp
ウェブサイト：http://www.nagoyashizen.net/
■例会の予定：例会は実施していません（役員会は偶数月の第 3 日曜日）。

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

団体の目的・主な活動内容

ヒメボタルを絆として、温かい心のつながりが広がるのが願いです。

1975 年にお堀電車の駅員だった竹内氏が、ヒメボタルの大発生を発見し、その後専門家の指導のもと保護活動をされていました。氏ご逝去後、家族・知人・氏と交流のあった小学校教員と教え子や親御さん方等で受け継ぎ、その輪が縦や横に広がっています。

ホタル発光の時期は、毎晩ホタルの数を数えたり、人々をご案内したりしています。「外堀は空堀で、ヒメボタルは陸生」「都会の真ん中のお城にヒメボタルが自然発生していることは大変貴重であること」等正しい情報発信をするため、ブース出展やステージ発表・お話会等を行っています。専門家の方のご指導を受けて調査も行います。市と外堀の草刈り等管理方法を相談したり、清掃も行ったりしています。

歌や絵本を作る・写真を撮る等、一人一人が自分にできることで活動をしています。

▲12 月 16 日「外堀を知ろう！体験会」外堀を体感

平成 29 年度の活動について

○ホタル発光の時期、毎晩 23 時頃～ 2 時頃、ホタルの数を数え毎日 HP に UP、人々のご案内をしました。発光時期は例年通り 4 月下旬～ 6 月上旬でしたが、6 月には少なくなりました。発光の時間帯が例年より遅く深夜 2 時頃に比較的多く発光が見られました。今年度は外国の方がいらっしゃったり、国内でも遠くから視察にいらっしゃる方がいたりしてとてもいい交流ができました。19 時頃にも現地に立ってみたところ、結構多くの方がいらっしゃいましたので、ホタルの見られる時間帯をご案内しました。こうした一人一人への対応はとても喜ばれます。こちらも嬉しいです。

○ホタル発光時期の前に、北土木事務所の方たちと現地の安全確認をしました。倒木には蛍光テープを巻いたり、通り道ではない場所は草木で隠したり、素早い対応をしていただけました。

○なごや生物多様性保全活動協議会より助成金のご支援いただき「外堀を知ろう！体験会」を実施しました。市・企業の方々と共に、外堀の自然観察をしたり、清掃を行ったりしました。講師の先生のもと、3 歳児～高校生～ 70 代の方まで、体験しながらみんなで楽しく学べる大変貴重な時間を過ごすことができました。オオケマイマイが今まで見つからなかった場所から見つかる体験がある一方、驚くようなゴミが捨てられている現状を知るなど、外堀を十分に体感し知ることができました。

団体の情報　主な活動場所　名古屋城外堀（外堀通沿）

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
E-mail：kazuyo29@gmail.com（事務局長：安田和代）　ウェブサイト：http://sotobori.sp.land.to/
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

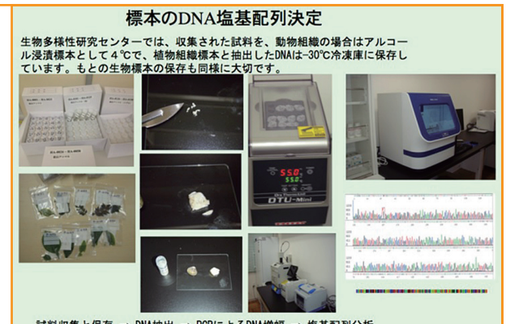
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター

団体の目的・主な活動内容

リンネの生誕 300 年（2007 年）、ダーウィンの生誕 200 年（2009 年）、杉浦昌弘（名市大院システム自然科学）の文化功労賞授与（2009 年）を受けて、名古屋市立大学では、2009 年度末に、生物多様性に関して多様な研究を行うとともに、啓発活動を継続的に行う研究センターを設立しました。本研究センターでは、「生物分類」「生物進化」「生物地理」「生態適応」「遺伝子資源の探索」「希少種の保全」など幅広いテーマで、生物多様性の理解と生態系の保全を目指して研究を進めています。また、全生物種について特定の遺伝子の塩基配列をカタログ化し、生きものの名前を遺伝子から特定できるシステムを作ろうという取り組み（DNA バーコード計画）に携わり、東海地方の生物を手始めに、様々な生物の標本と DNA データを収集しています。御興味をお持ちの方はどうぞ見学に来てください。

平成 29 年度の活動について

多くの方々のご協力をもとに、東海地方を中心に動植物の標本収集を行いました。特に 9 月の名古屋市内の淡水貝類一斉調査の際には、遺伝子分析を進めるためのサンプルを多数集めることができました。また陸産貝類や淡水貝類を中心に、ミトコンドリア DNA の塩基配列決定を行い、系統解析を行いました。名古屋市内の主な淡水貝種に関しては、それらを特徴づける DNA バーコードを取得しました。このほか市立高校の SSH 活動に協力し、「生物多様性の意義と DNA 研究」と題した研究室体験講座や実験指導などを行いました。



▲DNA バーコードを決める手順と実際に実験を行なっているところ

団体の情報

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター
TEL：(052) 872-5851　　FAX：(052) 872-5857　　E-mail：biodiv@nsc.nagoya-cu.ac.jp
ウェブサイト：http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/biodiv/

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

団体の目的・主な活動内容

名古屋の自然を守り、育て、ふれあい、学び、後世に継承することをめざし、加盟団体間の連絡を円滑にし、お互いに協力しあうことにより、各団体の活性化を図る目的で設立されました。

平成 29 年度の活動について

○平成 29 年度の加盟団体数　森づくりを楽しむ 30 団体が加盟
- 定例会の開催：偶数月　第 2 金曜日 18:30 ～定例会の開催
  奇数月　第 2 金曜日 18:30 ～幹事会の開催
- フィールド訪問の開催
  加盟団体の活動日に訪問し、研修会を兼ね課題の共有化を図る目的で、4 月は愛知守山自然の会、10 月は NPO 法人なごや東山の森づくりの会の現地訪問が行われました。
- 名古屋市生活科・総合的な学習教育研究会
  6 月は生活科・総合的な学習教育研究会にて、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会の活動紹介が行われました。
- テーマ協議
  6 月・8 月の定例会では「竹林管理計画と竹伐採について」、10 月・12 月の定例会では、「会員の確保について」、2 月の定例会では、「活動の安全管理について」協議がされました。
- なごや生物多様性センターまつり
  10 月なごや生物多様性センターにてブース展示が行われました。
- スキルアップ研修会の開催
  3 月は緑化センター講習室にて、愛知教育大学の大鹿聖公教授をお招きし、環境学習関連のお話しをしていただきました。

▲なごや生物多様センターまつり

団体の情報　主な活動場所　名古屋市内の緑地

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会
TEL/FAX：(052) 262-3181（事務局）
ウェブサイト：http://www.nga.or.jp/partnership/introduction.html
《[なごやの森づくりパートナーシップ連絡会] で検索》
■例会の予定：偶数月／第 2 金曜日 18：30 ～定例会の開催、奇数月／第 2 金曜日 18：30 ～幹事会の開催

NPO法人 なごや東山の森づくりの会

団体の目的・主な活動内容

「東山の森」に親しみながら森を学び、森の保全と再生を目指して森づくりをしています。

いのち輝く森を次世代につなげようと活動をしています。

雑木林・湿地・竹林の手入れ、森の観察・案内、森の調査、里山くらし体験　など。

平成 29 年度の活動について

毎年の活動は、雑木林・湿地・竹林の保全活動と子ども森づくり活動も、田んぼ講座、畑講座も大盛況です。また、なごや生物多様性保全活動協議会の水辺の生きもの部会と、東山新池の移入種スイレンの除去活動と水草の希少種の保全。猫ヶ洞池のヨシ原再生・ゴミ拾いWSも、日本野鳥の会愛知県支部、なごや生物多様性保全活動協議会と協働で実施しました。湿地の調査と両生類の産卵地の保全を実施しました。

活動日数　約300日／年、活動人数　約5,000人

団体の情報　主な活動場所　なごや東山の森

NPO 法人 なごや東山の森づくりの会
TEL/FAX：(052) 781-2595　　E-mail：takikawa-m@mtg.biglobe.ne.jp
ウェブサイト：http://www.higashiyama-mori.sakura.ne.jp/
■例会の予定
【定例森づくり】活動参加費：会員／無料・一般／ 200 円
活動日時：毎月第 1 日曜日　10：00 ～ 15：00
集合場所：毎回異なります
活動場所：奇数月／いのちの森・うるおいの森（東山公園南部）
偶数月／くらしの森（平和公園南部）

NPO法人　日進野菜塾

団体の目的・主な活動内容

都市農地の遊休地の活用方法を考えることから始まり、生きものとの共生、自然を守る観点から有機農法を選び、日本の伝統文化を学び、命がつながっていく営みを知り、命の大切さを知る、そんな場にしたいと考え、農体験教室、生きもの観察教室を行っています。子供の食育、環境教育、都市住民の農への理解、自然体験の楽しさ・魅力を日々発信続ける場となることを希望しています。又、地域の子育て NPO、介護・障がい者団体等との農を生かした連携も進めています。栽培は、農薬や化成肥料を使いません。

平成 29 年度の活動について

①農業体験農園（指導付き農園）毎週土曜日（講義と実践）
②ダンボール生ゴミコンポスト講習会
③生きもの観察コース（子ども生きもの調査隊）
④ハウス食品「食と農と環境の体験教室」
⑤就労支援のための職場体験受け入れ
⑥マンション住民向け農体験講座
⑦朝市の事務局
⑧その他、田植え、稲刈り、ハーブ教室、ミカン剪定収穫、イモ掘り、餅つきなど随時開催。

▲近くの川で生きものさがし

▲畑でいろいろな作物の姿を知る

団体の情報　主な活動場所　日進市本郷

NPO 法人　日進野菜塾
TEL：090-5443-1518　　FAX：(052) 934-7207　　E-mail：info@n-yasaijuku.com
ウェブサイト：http://n-yasaijuku.com/
■例会の予定：日曜日 9：00 ～ 12：00

日本カメ自然誌研究会

▲名古屋城外堀のアリゲーターガーを捕獲

団体の目的・主な活動内容

本会は、カメの自然誌に関心のある研究者・ナチュラリスト・愛好家の交流・親睦・情報交換を目的とし、1998 年に発足した研究会です。生息環境の破壊の影響で減少しつつある自然(野生)のカメと人とが良い関係を保つためにはどうすればよいのかをみんなで考えています。交流のため年に一度「日本カメ会議」を開催しています。また在来のカメの保護や外来のカメの防除に関する、行政などの機関からの調査の要請も請け負っています。なごや生物多様性保全活動協議会が発行した「ミシシッピアカミミガメ防除マニュアル」は本研究会が監修しました。

平成 29 年度の活動について

- 名古屋城管理事務所からの依頼で、名古屋城外堀のアリゲーターガーの捕獲を実施し、5 月 17 日に捕獲に成功しました。
- 7 月 29 日には、なごや生物多様性保全活動協議会のメンバーでもある山崎川グリーンマップさんが主催された生き物観察会で、山崎川での水生動物の採集や学習に協力しました。
- 10 月 28 日より名古屋港水族館で開催されている特別展「カメ、知ってる？～意外に知らない日本のカメ事情～」に協力しました。
- 3 月 10 日～11 日に名古屋港ポートビルで「第 19 回日本カメ会議」を開催しました。

団体の情報

主な活動場所　その都度検討

日本カメ自然誌研究会
住所：〒471-8532　豊田市大池町汐取 1　愛知学泉大学矢部研究室内（事務局）
TEL/FAX：(0565) 35-8373　　E-mail：kame@gakusen.ac.jp
ウェブサイト：http://www1.m1.mediacat.ne.jp/chelonian-1998/
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

日本野鳥の会愛知県支部

▲探鳥会の様子

団体の目的・主な活動内容

日本野鳥の会は 1934 年（昭和 9 年）に創設され、全国に 90 の支部があります。愛知県支部は本部創設の 4 年後 1938 年に中京支部として誕生し、今年で 79 年を迎えます。活動の柱として野鳥を通して自然の大切さ、楽しさを知ってもらう普及活動、野鳥とその生息域を守るための保護活動、生態や生息数等を調べる調査活動があります。

そのうち普及活動の一つ、探鳥会は一般の方に野鳥観察の楽しさを知ってもらうため、会員以外の方も参加できます。また、参加の予約や費用も必要ありませんのでお気軽にご参加下さい。探鳥会の詳細はＨＰ又は毎週中日新聞、朝日新聞に掲載しています。詳しくは事務所（末尾参照）へ問い合わせして下さい。

平成 29 年度の活動について

本年度に限らず次のような活動を継続して行っています。

1) 普及活動
　探鳥会：年間 140 回以上　参加者はおよそ 2600 名
　愛知県弥富野鳥園野鳥観察指導、バードウィーク写真展開催、小学校における環境学習の手伝い

2) 保護・調査研究活動
　愛知県定点調査（県内 22 箇所で 40 年以上継続中）、カワウ調査 8 箇所、サギ調査（東名阪弥富・蟹江インターチェンジ）、コアジサシ調査　県内全域、木曽岬干拓地猛禽類調査

団体の情報

主な活動場所　各地

日本野鳥の会愛知県支部
住所：〒462-0844　名古屋市北区清水五丁目 10-8　グリーンフェロー 3A（日本野鳥の会愛知県支部事務所）
TEL/FAX：(052) 912-9531　　E-mail：front@wbsj-aichi.org　　ウェブサイト：http://wbsj-aichi.org
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

花水緑の会

▲親子竹林管理体験

▲ビートルベットを作って遊ぼう

団体の目的・主な活動内容

2002 年「花水緑の公園通り」と命名した公園を結ぶ道路を花一杯にするまちづくり運動としてスタートし、公園予定地を開墾して、種から育てる花づくりに挑戦する会として発足。緑区内 21 か所で、「花と緑」をキーワードにしたまちづくり・緑づくりのグループです。

平成 29 年度の活動について

各部会に分かれて独自に活動中。

【定期活動】
・春の種まき(3月末から4月)マリーゴールドなど。ポット移植(5月)
・初夏の花苗植え込み（6 月）街路樹植えマス・公園花壇など
・秋の種まき(9 月)パンジー・ノースポールなど。ポット移植(10 月)
・秋冬の花苗植え込み（11・12 月）

【年間を通しての活動】
各部会担当街路樹植えマス・公園花壇などの清掃・除草・水遣り等の維持管理。大高緑地の竹林・雑木林の保全・整備と竹炭づくり・ササユリ自生地の保全活動。

【イベントなどの参加】
あいち都市緑化フェア・みどりっ子体験フェスタ・身近な自然体験会・緑区クリーンキャンペーン・扇川緑道交流会・なごや生きもの一斉調査 2017・緑区区民まつり・みどり多文化交流会・親子竹林整備体験・ビートルベットを作て遊ぼう・なごや生物多様性サマースクール 2017・アカマツが育つ環境づくり

団体の情報

主な活動場所　こもれび広場・大高緑地・扇川公園・通曲公園・扇川緑道・白土中央公園坊主山公園・上ノ山公園・滝ノ水緑地公園・清水山・鳴子中央公園・なるぱーく・水広下・梨の木公園・左京山・亀が洞

花水緑の会
TEL：(052)625-3878　FAX：(052)623-8191（緑区役所地域力推進室）　E-mail：a6253871@midori.city.nagoya.lg.jp
■例会の予定：不定期

隼人池を美しくする会

▲隼人池の生きものを観察する子どもたち

▲防災訓練の炊き出し

団体の目的・主な活動内容

地域住民に愛される公園にしたいと、活動をスタート。公園や池の清掃や除草などの手入れ、池に流入する雨水や湧水の汚れの除去などを定期的に行っている。平成21年には名古屋ため池生物多様性保全協議会と協働で、市民とともに隼人池で池干しを行った。池干しでとれた外来の魚やカメ等を取り除いた。

平成 29 年度の活動について

地域の憩いの場として、隼人池の自然をみんなで守り育てたいと考え、日々取り組んでいる。

①定例活動
　公園・池の清掃を定期的に行っている。

②その他活動
　防災訓練他、年に数回あり。

団体の情報

主な活動場所　隼人池公園

隼人池を美しくする会
TEL：090-4468-0500（携帯）（代表：加藤　昌平）

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

団体の目的・主な活動内容

藤前干潟の保全ならびに干潟環境の重要性についての啓発をすすめ、さらに広く伊勢・三河湾流域圏の環境再生・持続可能な社会実現をめざす。

平成 29 年度の活動について

・主催事業
　「干潟の学校」
　「ガタレンジャー養成講座」
　「ガタレンジャー Jr.」
　環境省・名古屋市等との共催事業
・各種団体・学校等からの依頼による体感学習
・環境イベント等への出展
・環境省の委託による「稲永ビジターセンター」「藤前活動センター」の運営等

団体の情報　主な活動場所　藤前干潟周辺

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会
TEL：080-5157-2002　　E-mail：info@fujimae.org
ウェブサイト：http://www.fujimae.org
■例会の予定：理事会毎月 1 回（不定期）・総会年 1 回

三河淡水生物ネットワーク

▲愛・地球博記念公園（モリコロパーク）の水生生物調査

団体の目的・主な活動内容

2008 年 2 月に設立し、愛知県を中心とした爬虫両生類、魚類、貝類、水生昆虫類などの淡水生物とそれに関わる鳥類などの生物、ならびに、河川に関わる大学や水族館・博物館、行政などの関係者や研究者（アマチュアを含む）によって構成されたネットワークグループです。「研究者間の情報交換と交流の場の創出」、「水辺生態系保全に向けた、正確なデータの収集と提言」、「市民への啓蒙と情報の発信」、「次世代の研究者育成」を目的に、年 4 回の会合では専門家による話題提供のほか、情報や資料の交換、標本の同定や各々の関わる事業への相互協力など。フィールドでは調査による水生生物相の把握と同時に、希少生物や外来生物の生息データの収集・蓄積。また、より多くの方に、楽しく気軽に生き物や水辺環境に関心を持って頂けるよう、水族館や博物館への展示協力、観察会やシンポジウムの講師、研究発表、研究会誌や博物館館報への投稿など、広く情報を発信しています。そのほか、図鑑をはじめとする出版物への写真の提供や協力、レッドデータブックなごや 2015 の執筆・協力も行っています。

平成 29 年度の活動について

継続実施している愛・地球博記念公園（モリコロパーク）における水生生物調査に、淡水魚の保護・繁殖活動を行っている学生を同行させ、実際の生息環境や同所に生息する水生生物について学んでもらいました。
引き続き、愛知県内において、希少種・外来種の調査を行っています。

団体の情報　主な活動場所　愛知県全域

三河淡水生物ネットワーク
E-mail：fw-life@katch.ne.jp
ウェブサイト：http://www.geocities.jp/fw_life/

名東自然観察会

▲自然観察会の様子

団体の目的・主な活動内容

豊かな自然環境を後世まで残す為、自然環境を意識する人を増やす事を目的として自然観察会を行いながら参加者の方も楽しんで体験して意識できる活動を行うことをモットーに活動を行っています。自然を大切にする人の参加大歓迎です。「春」「夏」「秋」「冬」自然との対話を楽しみましょう。

平成 29 年度の活動について

名古屋市名東区猪高緑地内においては昭和58年に会の設立以来毎月第2土曜日9:30～定例自然観察会を開催してきました。H29年度の実績は観察会散策会合わせて年間総参加者数134名（H30.1月現在）でした。
また、猪高緑地内にオアシスの森事業として提案復元された棚田において、「なごや環境大学」の田んぼ講座の活動は、連続15年間に渡り田んぼ体験講座を行ってきましたが、時代の流れか？田んぼ周辺の環境人間や自然保護に対する意見の変化についていけなくなり、H28年度末をもって田んぼ体験講座については撤退しました。
今後は自然環境豊かな里山環境の残された猪高緑地において、名東自然観察会として初心に戻り、生物多様性の保全保護・地球温暖化防止活動など、幅広い活動を行っていこうと思っています。
今後ともご支援・ご参加よろしくお願いします。

団体の情報　主な活動場所　名古屋市名東区猪高緑地内・他

名東自然観察会
設立：昭和 58 年 4 月～初代代表は朱雀栄八郎氏・代表没後 H6 年度～名東自然観察会代表　堀田　守
TEL/FAX：(052) 704-1196　　E-mail：hori-tamori@nifty.com
ウェブサイト：http://homepage3.nifty.com/horitamori/　《［名東自然観察会］で検索》
■例会の予定：活動日／毎月第 2 土曜日 9：30 ～午前中　名東生涯学習センター前集合
　その他：長袖・長ズボン着用・あれば図鑑・虫眼鏡・双眼鏡・汚れてもよい服装・履きなれた靴

名東自然倶楽部

▲田んぼにて淡水貝一斉調査

団体の目的・主な活動内容

名東区内の豊かな自然を後世に引き継ぐための活動を目的としています。上記目的の為の活動を 7 つのグループがそれぞれの分野で行なっています。
①里山保全グループ･･･猪高緑地内の竹林整備や里山風景の復元の為の保全活動を行っています。
②田んぼグループ･･･復元した棚田で、一年を通した「コメ作り」を体験してもらいます。
③炭焼きグループ･･･猪高緑地で増えすぎている竹を伐採し、竹炭を焼いて、有効利用しています。
④自然観察グループ･･･自然の多様性など観察をとおして、里や緑地の案内をしています。
⑤総合学習グループ･･･近隣の小中学校の総合的な学習の時間で環境学習を行っています。
⑥竹クラフトグループ･･･猪高の竹で竹トンボ等の竹玩具や道具を作って有効利用しています。
⑦調査グループ･･･緑地の保全の為に、生物、地形、水質の調査や保護活動を行っています。
グループ単独のみでなく、各グループが連携して、全体活動やイベントの運営を行っています。

平成 29 年度の活動について

○通常活動以外の活動
「竹林管理体験会」主催、「春の環境デーなごや」参加、「猪高の森で自然探検　～水辺の生き物探検隊だ～」主催、「名東エコフェスタ 2016」参加、「環境デーなごや」参加、「なごや生物多様性センターまつり」参加、「ふれあい生涯学習まつり」参加、「猪高緑地竹刈り体験会」主催、「里山マイスター講座」運営
○なごや環境大学　共育講座　企画運営
里山の恵み 星形リースを作ろう、ミニ門松を作ろう、竹の炭焼き体験、竹クラフト教室

団体の情報　主な活動場所　猪高緑地（名東区）

名東自然倶楽部
TEL：090-2618-3628　FAX：(052) 703-0730　　E-mail：k-takagi@zd6.so-net.ne.jp
ウェブサイト：http://sizen.ciao.jp/
■例会の予定：全体活動日　毎月第 1 土曜日 9:30 ～ 12:00、各グループの活動日はホームページを参照願います。

もりづくり会議

団体の目的・主な活動内容

わたしたちは、身近な森である鎮守の森をよりよく保全するため、またその方法を検討してくために、千種区の城山八幡宮を主なフィールドとして活動をしています。小規模な会ですが、みんなで案を出し、様々な企画をわきあいあいと行っています。

もりの保全活動を通じてつながる、人の輪づくりも大切にしています。お気軽に活動を見に来てください。

平成 29 年度の活動について

本年度に限らず、今までの活動について紹介します。

月1回、定例会議と定例活動を行っています。定例活動の主な内容は、基礎的な活動として、清掃、シュロ・ササ等の除伐、枯れ枝払い、樹名板の製作と設置等を行い、季節的な活動として、アベマキ、アズキナシ、カマツカ等の苗木作りと植樹、生きもの観察会、クラフト作成などを行っています。年末の忘年会では、メンバー自作のゲームやプレゼント交換などを楽しみながら一年の活動を振り返ります。これまでに、なごや生きもの一斉調査の淡水貝編（2017年 ）やカマキリ編（2015年 ）、陸貝編（2012年 ）などにも参加してきました。

2016年からは城山八幡宮をはじめ、地域の希少種の苗木育成に力を入れています。2017年の夏のクラフト活動では、たくさんの参加者の方々と押し葉を使ったハガキ作りを楽しみました。

団体の情報　主な活動場所　城山八幡宮

もりづくり会議
E-mail：morikaigi66@gmail.com
■例会の予定：月１回、定例会議と定例活動

守山リス研究会

団体の目的・主な活動内容

1990 年から名古屋市東谷山を中心として生息する野生のリス・ムササビをはじめ哺乳動物とその生息地の調査・保全をする中で環境教育をすることを実施。また名古屋市や周辺地域の住民が地域の歴史、文化を含めた「ふるさとの宝」として思い、守っていく活動を目指しています。

(1) 生息する野生のリスをはじめとする哺乳動物とその生息地の調査・ 保全。
(2) そういった活動の中で調査された情報を環境教育プログラムとして作成展開。
(3) さらに名古屋市や周辺地域の住民が「ふるさとの宝」として思い、守っていくまちづくりを進めるための活動に展開。
(4) 地質や自然の調査保全に獣害、外来種などの対策や神社・古墳の歴史、文化を含めて調査学習し、全てを記録に残して月報「リス研通信」として会員・関係者に報告しています。

平成 29 年度の活動について

(1) 10 台以上の自動撮影装置を 1 年中森に設置してその行動、出現を調査。動物のフン調査・テレメ調査の組み合わせで、繁殖・棲み分け行動を調査（ニホンリス、ムササビ、ニホンイタチ、ニホンキツネ、ニホンテン、ニホンカモシカ、アカネズミ、イノシシ、カイネコ、カイイヌなど）。
(2) なごや環境大学共育講座（13 年以上継続 ）で月二回活動を公開しリス捕獲調査・知恵比べによる発見学習・課題解決学習を体験、環境デーなごや（10 年以上継続のフィールド活動）、東海シニア大学講座（30 人 ×2 回　12 年以上継続 ）、生涯教育センター講座、愛フェス出展、ファーストキフ協働活動、名古屋市科学館・愛知サマーセミナー（12 年以上継続の座学とフィールド活動）・オータムンフェス・こども団体へのリース・ワークショップ活動実施。
(3) 地域との連携として農家と獣害調査対策（イノシシ、アライグマ、ハクビシン、ヌートリア、キツネ）の実施、山や森の浸食防止のための山道改修、植樹、など山や森が浸食されないような調査保全活動を実施。
(4) 人間にも影響する SFTS ダニ感染症の事前調査、イノシシ拡大によるヤマビル拡大可能性調査、カイネコ徘徊によるトキソプラズマサイクルの成立状況調査など　内外寄生虫や害虫の調査を実施
(4) 調査をする中で小中学生の観察力強化・環境教育として市内小中学校の総合学習支援・トワイライトスクール支援などや、大学生ボランテイアの長短期受入指導（10 人 ）、2016 年より継続している卒論テーマ調査のための名城大の学生さん 1 年間支援と協働活動などを受け入れ、留学生へのボランテイア研修・環境教育を実施しています。

団体の情報　主な活動場所　東谷山・森林公園ゴルフ場・森林公園　岐阜金華山　軽井沢　嬬恋

守山リス研究会
TEL/FAX：（052）795-2616　　E-mail：risuken@kzc.biglobe.ne.jp
ウェブサイト：http://www.asahi-net.or.jp/~fb4m-iszk/risuken、http://risuken.sakura.ne.jp/（当面両方維持）
■例会の予定：定期調査／毎週土曜日 9：30 ～ 13：30
なごや環境大学共育講座＋リス捕獲調査／第 3 土曜日 9：30 ～ 14：00（第 4 土曜日は知恵比講座）

矢田・庄内川をきれいにする会

団体の目的・主な活動内容

きれいにする会は昭和49年12月27日に結成（会則は翌年5月制定）されました。当時の日本は高度成長期の真っただ中にあり、水も大気も汚れるのが当たり前の時代でした。その時、きれいにする会は「庄内川水系を汚すすべての汚染源に対し、きれいで快適な生活環境をとり戻し、次代へ引きつぐ」ことを目的として掲げ、活動を開始しました。

平成 29 年度の活動について

・「庄内川へアユを呼び戻そう！」イベント（5 月）
・「矢田川で魚を捕ろう」イベント（5 月）
・庄内川河口二枚貝調査（7 月）
・第 7 回庄内川水系天然アユ友釣り大会（9 月）
・庄内川祭り第 43 回魚釣り大会（11 月）
・志段味ビオトープ竹林整備とカワラナデシコの栽培（4 月～）
・矢田川魚道の生き物調査・環境整備活動（5 月，6 月，9 月）
・庄内川水系に生息する魚類標本作成（4 月～）

その他
・ＮＰＯ土岐川・庄内川サポートセンターとの協働活動
・土岐川・庄内川流域ネットワークとの協働活動

団体の情報　主な活動場所　庄内川水系―庄内川・矢田川

矢田・庄内川をきれいにする会
TEL：（052）794-3876　　FAX：（052）796-2344　　E-mail：yadashounai@gmail.com
ウェブサイト：http://www.yadashounai.org/
■例会の予定：4 月総会、以降不定期に役員会開催

山崎川グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

都市河川である山崎川は、まわりの都市化と開発のため、戦後 70 年の間に大きく環境が変わりました。そして、現在は人が放流した外来種のために、本来の生態系が崩れつつありました。山崎川グリーンマップは 2008 年より、ミシシッピアカミミガメやカダヤシなどの外来種の防除を続けています。川のどこにでも見られたミシシッピアカミミガメの数は、探さないと見つからないほどに数が減りました。しかし、環境や生態系に最大のインパクトを与えているのであろう外来種のコイについては、2016 年より、ようやく取り組みが始まったばかりです。数を減らすには、長く継続的な取り組みが不可欠です。

平成 29 年度の活動について

① 5月9～31日
山下橋下流に、浮島型カメ罠設置。周辺が工事中であること、数年来続けている外来種防除の成果が出て数が減ったことで、ミシシッピアカミミガメ2匹のみ捕獲。
② 6月2日【金】2／3限目
瑞穂区汐路小学校環境学習で、4年生全員対象に山崎川の生き物を紹介。
③ 7月28日【金】午前中
山崎川ふれあい親水公園下流で、夏休み生き物観察会を開催。講師は、アウトドアタレントの鉄崎幹人氏、日本カメ自然誌研究会の矢部隆先生他。このときの様子が、名古屋港水族館特別展「カメ、知ってる？～意外に知らない日本のカメ事情」で、2018年5月27日まで紹介されています。
④ 7月28日【金】午後
山下橋下流で、コイの防除。名城大学理工学部環境創造学科谷口研究室の協力で、コイ31匹とヘラブナ2匹を取り除く（重量58.9KG）。

団体の情報　主な活動場所　山崎川　瑞穂区内

山崎川グリーンマップ
TEL/FAX：（052）841-6048　　E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp
ウェブサイト：http://www1.m1.mediacat.ne.jp/a-ohya/
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

「なごや市民生きもの調査員」募集中！

なごや生物多様性保全活動協議会や協議会会員団体が行う生物調査や講習会、イベントなどの情報をメールでお届けします。どなたでも登録いただけます。詳しくは協議会ウェブサイトまで。

平成29年度 なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書

発行年月　平成30年3月
発　　行　なごや生物多様性保全活動協議会
（事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内）
〒468-0066
愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地
電話　052-700-7792　　FAX　052-839-1695
ウェブサイト　http://www.bdnagoya.jp

＊この活動報告書は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。